

【表6】観世長俊現存作品における使用面

曲名	(前)シテの面	後シテの面	ツレなどの面	龍の登場
異国退治	[老翁: 尉面]	[志賀明神: 悪尉面系か]	[龍女: 泥眼等か] [龍神: 黒髭や飛出か]	○
巖島	曲見	増	童子(子方の場合も)/黒髭	○
江ノ島	笑尉(朝倉尉)	大飛出(黒髭)	増	○
大社	小尉	鼻瘤悪尉	連面/黒髭	○
岡崎	天神	—	—	—
河水	直面	—	連面/黒髭/怪士	○
葛城天狗	平太(怪士・直面)	大癪見	怪士(子方の場合も) 童子(子方の場合も) 大悪尉	—
降魔	泥眼→般若(早替)	繩	泥眼→般若×2(早替) 惡尉 天神 〔間狂言: 象・馬・牛・羊・獅子〕	—
格塚	[男の靈: 怪士系か]	—	〔妻の靈: 女面〕	—
正尊	直面	直面	女面(現行は子方)	—
親任	登場人物すべて直面か	—	—	—
長脚寺	[大蛇: 黒髭か]	—	〔天狗: 大癪見の類か〕	○
花軍	小面(曲見)	石王尉	連面×複数(子方の場合も)	—
広元	直面	直面	女面	—
丸子 (三上ヶ嶽)	[老翁: 尉面]	[明神: 悪尉面系か]	[三鬼: 鬼面(縛や飛出か)×3] [大犬: 鬼神面系か]	—
呂后	直面	—	筋(般若) 三日月 怪士類(黒髭?) 女面(姥面)	△*
輪藏	皺尉	—	小尉/天神	—
老子	[天女: 女面]	[老子: 尉面か]	[天女(前シテと同体): 女面]	—

\*『妙佐本仕舞付』の「カンシン、蛇の出立」による(第四項〔例1〕(呂后)参照)

## 田中允文庫蔵書目録 上(付解題)

今伊 海 孝 隆 裕 充

学に移り、退官後も長らく研究活動を続けられた。戦中よりまだ注目されていなかつた謡本・作者付・演出資料などを数多く学界に紹介され、「改訂増補四座役者目録」(わんや書店、一九七五年)、『謡曲集』(朝日新聞社、一九四九~五一年)

などを編んだ。

その田中氏の最大の業績が番外曲研究であることは言うまでもなく、一九五二~一九八年の長年にわたり、「番外謡曲(二冊)・『未刊謡曲集』(正・続五十三冊)で番外曲を約二千五百曲翻刻・紹介された。たんに稀曲を紹介すだけではなく、使用した謡本の解説や所収曲解題を付し、今後進展が望まれる番外曲研究の基礎となる偉大な業績を残した。

本文庫所収の資料は、この『未刊謡曲集』を編纂するために書写・撮影された謡本資料が大半を占める。撮影されたものは紙焼写真に現像し、和装本形態に綴じられているものが多いため、また書写された資料の多くは、薄様紙を用いて透写され、各丁の間に楮紙(間紙)を挟むかたちで、丁寧に装帧されている。本文庫資料は氏旧蔵の浅葱表紙本のように現所在がより本研究所の専任所員となつた。一九七〇年に青山学院大

## はじめに

能楽研究所設立から一九七〇年まで、所員をつとめた田中允氏が一九〇二年十月一日に亡くなられた(享年八十八歳)。生前の二〇〇一年十一月に、田中氏本人から長年にわたって収集された能楽関係資料の寄贈を受け、本研究所で「田中允文庫」として保管・公開することとなつて、寄贈されてからすでに七年がたつており、公開が遅れたことをお詫び申し上げる。

田中允氏は「穂積光晴」という芸名で活動されていた幸流小鼓方の能役者であるが、ここでは研究者としての氏の業績を振り返つてみる。田中氏は一九一三年に三重県津市に生まれ、東京帝国大学国文学科に進み、戦中は横浜医専(現在の横浜市立大学医学部)などで教鞭をとられたのち、戦後一九四八年に当時の法政大学総長・野上豊一郎氏の招きで、能楽研究所設立予備委員として同文学部助教授に着任、五二年より本研究所の専任所員となつた。一九七〇年に青山学院大

不明なもの、能勢本のように原本が存在しないものなど、原本の様相を僅かながら確認できる資料的価値の高いものも多い。

謄本以外にも、まだ広く知られていない氏旧蔵和泉流狂言台本の複写や、「国書総目録」によれば唯一の伝本とされる同氏旧蔵『木造物語』の複写のように、原本こそないが複写・複製のかたちで残っている貴重な資料も含まれる。

なお、本号では謄本(一)・部分謄(二)のみを掲載し、次号にそれ以外の資料と謄本の曲名索引、「国書総目録」対照表を掲載する予定である。調査が行き届かず、田中氏が閲覧した原本の所在など判明していない資料もある。ご教授願いたい。

### 【凡例】

- ・本文庫は旧蔵者自身が書写・撮影した資料が大半を示すため、その性質を明確に示すことを旨としている。
- ・資料は一 謄本・二 部分謄・三 伝書・四 演出資料(付類)・五 注釈書・六 名寄・七 解説書・八 史料・九 狂言・十 田中允関係資料・十一 能楽以外の資料に分類する(三以降は次号掲載予定)。
- ・各分類の中の資料は、原本(後掲の「写本」「刊本」)、旧蔵者書写・撮影資料の順序に挙げる。旧蔵者書写・撮影資料はおおよそ原本の成立年代順に掲載するが、性質の類似する資料がある場合は成立年代より優先した。
- ・書名は、基本的に旧蔵者が付けた名を用いる。すでに一般に浸透している書名と異なる場合は、【内容】の中で言及する。
- ・旧蔵者が原本の一部を書写・撮影したものは、書名を「(抄)」と示す。
- ・【形態】には刊本・写本・写真資料の種類と書籍の大きさを示す。
- ・出版物はすべて「刊本」とする。
- ・旧蔵者自身が書写・撮影した資料は、その方法がわかるように分別し、【形態】に示す(例)、「透写本」「ペン写本」「紙焼写真」「複写」など。「複写」となっている場合は、コピー機にての複写を示す。旧蔵者以外の書写本は、「写本」とする。
- ・【書誌】には、資料の書誌情報と旧蔵者の奥書・識語を示した。旧蔵者が別の透写本をさらに透写するという過程を踏む資料も少なくないので、わかりやすさを考慮し、旧蔵者が閲覧した原本やその祖本にあつた奥付は、すべて【内容】の中で言及することとする。刊本・写本の奥付はすべて、【書誌】の中に示す。
- ・【内容】には、資料の内容とそれが書写・撮影された経緯、原本の現所在をわかる範囲で示す。個人蔵の資料などは、現所在が不明である場合も少なくない。
- ・本文庫資料は、古典文庫『未刊謄曲集』(止・続)と密接な関係がある。番外謄本などの性質については、すでにそれらに言及されていることも多い。『未刊謄曲集』に闇解説がある場合は、【内容】に挙げることとし、書名は「未」「未続」などの略称を用いることとする。
- ・本目録(付解題)は、①能楽研究所『蔵書目録附解題』・②『鴻山文庫本の研究』(表章氏、わんや書店、一九六五年)・③『鴻山文庫藏能楽資料解題 上』(一九九〇年)・④『鴻山文庫藏能楽資料解題 中』(一九九八年)・⑤早稲田大学演劇博物館特別資料目録5『貴重書能・狂言篇』(一九九七年)を参照した事項が多い。以下、各目録名は①「能研」・②「鴻」・③「鴻上」・④「鴻中」・⑤「演博」の略称を用いることとする。
- ・本目録は、一項目ごとに伊海・今泉が分担して作成した。ただし、謄本・部分謄の曲名入力は主として今泉が担当した。

# 一 謡本

## 《上掛り》

### 1 上掛り五番綴番外譜本

【形態】写本。半紙本。

【書誌】原装灰色表紙(二三・一×一六・五cm)。横長題簽に曲名を墨書き。本文料紙は楮紙。半葉七行。墨付三十九丁。奥付なし。「一曲目以降、一丁目の背に黒紙片を貼る。

【内容】江戸末期から明治初期に書写されたと思われる番外曲譜本。所収曲のうち、初雪は四百番本、それ以外は三百番本に所収されており、詞章も同系統である。

【曲名】初雪・室住・聟入自然居士・園田・千手寺。

### 2 二番綴無刊記譜本

一冊

二冊

【形態】刊本。大型半紙本。

【書誌】鱗形艶出紺表紙(二四・一×一八・三cm)。中央金箔散らし長形題簽に「西王母／大般若」と墨書き。内題は所収曲の曲名。本文料紙は薄葉紙。半葉七行。墨付十六丁。版心に曲名と曲ごとの丁付を刻す。奥付なし。直シ入。香村文庫と田中允の藏書印あり。

【内容】無刊記の観世流譜本。刊記はないが元禄三年山本長兵衛刊本をはじめとする外組e(鴻)及び(鴻上)参照)と同版。この組み合わせは外組の中で江戸期を通じてもつとも流布したものなので、刊年は特定できないが、江戸中期以降

に後人が改修した本であろう。

【曲名】西王母・大般若。

一冊

二冊

【形態】刊本。半紙本。

【書誌】金刷流水銀杏模様紫表紙(二三・四×一六・四cm)。上巻、左肩長題簽に「法然上人御事蹟譜曲 正本」と刻し、本文料紙は楮紙。内題は所収曲の曲名、その下に配役を刻す。

横長題簽に所収曲曲名を刻す。題字二丁。序三丁。緒言二十。本文料紙は楮紙。内題は所収曲の曲名、その下に配役を刻す。下巻、同表紙、左肩長形題簽に「法然上人御事蹟譜曲 普及会」解説)。刊記あり(昭和六年、法然上人御事蹟譜曲普及会)。帙入り。帙題簽に「法然上人御事蹟譜曲」と刻す。

【内容】法然上人の事跡を元にした新作曲。観世流節付。『鴻上』三二-A-3参考照。

### 【曲名】誕生棕・片目川・室津・法然・桜が池

一冊

二冊

【形態】刊本。半紙本。

【書誌】一冊目、金刷流水銀杏模様黒表紙(二三・四×一六・四cm)。昭和七年再刊。ほかは一2と同。二冊目、下巻、流水銀杏模様空押黒表紙。ほかは一2と同。上巻のみ帙入り。

【内容】昭和七年の再刊本。所収曲などは一2と同。

### 3 法然上人御事蹟譜曲

【形態】刊本。半紙本。

### 5 久留米藩譜曲全集

十冊

鶴久次郎編、一九四五年刊。久留米藩縁の曲の譜本集。観世流節付の譜本を影印したもの。高良山・風浪・風浪(宝生流詞章)・一夜川・小倉・朝日寺・五穀・柳原・西都十二景、全九曲。解説一冊。紙製帙入り。

### 6 三浦本番外譜曲

百冊

【形態】透写本。包背表中本。

【書誌】花紋散らし模様白茶色表紙(一八・四×一三・六cm)。中央に長形題簽。本文料紙は薄葉紙。半葉六行。田中允奥書「三浦本百冊は室町中期の古写本/紀州徳川家家老三浦家に代々傳はつた家宝/で(中略)借覽して影写せしものなり/昭和二十六年三月/此の本については講談社の新註国文学叢書の譜曲名作集中に川瀬一馬氏が解説してある/昭和二十七年三月/田中允識」。全冊裏見返し「三浦本百冊之中」とある。一番綴百冊、百番。

【内容】田中允奥書にあるように、この本については「譜曲名作集(中)」(講談社、一九五一年)なかで、川瀬一馬氏が「三浦本」百番譜本に就いてとして論じている。原本奥書なし。この本は三浦左近太夫頼忠旧蔵の譜本で書写年代は室町末期以前とされ、(竹の雪)を含むことから宝生流のものと推定されているが存疑。また全百番のうち三十五曲を「譜曲名作集」のなかで底本として用いる。現在の所蔵先は不明。

【曲名】矢しま・小原御幸・江くち・西行桜・桜川・しげひ

### 7 能楽研究所蔵柳洞本

九袋

【形態】紙焼写真。袋入。

【書誌】八・一×一二・〇cmの紙焼写真。写真店の封筒に原本の冊ごとに収める。封筒に「柳洞本寫真」と所収曲を記す。九十曲所収。

【内容】貞享頃書写された上掛り番外譜本。各冊の奥付に「柳洞」(未詳人物)の書名があるため、「柳洞本」とも呼ばれる。番外曲ばかりを集めた譜本としては、古い部類に属する。

能楽研究所請求番号「一二八一」。

**【曲名】**

1 来・鱗形・石橋山・硫黃島・因幡猩々・濱川・橋立・馬融・橋姫・巴園橋。2 泊瀬西行・錦・螢・虎送曾我・常磐問答・長卿寺・長兵衛・龍神橋立・龍宮猩々・女沙汰。3 小手巻・蛙・神崎・河水・巖洞・神無月・加茂恵心・高野敦盛・義経・吉水。4 芳野・吉野天人・七夕・高安・太子・玉攬・涿鹿・莫若・大聖寺・多門寺。5 玉津島・當願暮頭・玉津嶋龍神・孫思・そさのほ桜・卒都婆重衡・室住・梅若・智入自然居士・浦鷗。6 熊手判官・易犬・野干・八幡・柳津・山崎猩々・松竹・松浦物狂・堯舜・教訓。7 現在江口・現在熊坂・藤・藤波・富士山・二人御子・纏妻・木幡・戀重荷・阿佛。8 扇巴・安録山・飛鳥川・飛鳥寺・栗津采女・美方・貞任・三藏法師・行賀・帰雁。9 朱雀門・書写詣・真光寺・志義山・志賀忠則・門破・選擇集・薄・硯破・諷訪

**8 浅葱色表紙本**

**【形態】**複写。仮縫。

**【書誌】**コピー機にてB5判に複写、仮縫する(二五・七×一八・二四cm)。表紙には原本表紙コピーあり。

**【内容】**田中允氏旧蔵上掛り番外譜本の複写。五番綴三十九冊、二番綴一冊、計一九七曲所収。万治三年ごろに成立した「不斷桜」が所収され、「東心房」に元禄十年の朱書きがあつたらしいので、江戸中期ごろまとめられた謡本らしい。現在、

原本の所蔵先は不明であるため、複写として残っている本資料は貴重。

**【曲名】**

1 扉・西寂・玉津嶋・安犬・鈴鹿。2 巴園・寒検実盛・上人流・反魂香。3 江嶋・清時田村・空蟬・敷地物狂・小環。4 枕士童・追懸鈴木・留林寺・岡崎・内府。5 神在月・貞任・胡蝶・空也・菅承相。6 太子・廣基・侍従重衡・聟入自然居士・齊藤五六代。7 御裳濯・野口判官・鶴岡・稻舟・女沙汰。8 龍頭大夫・空腹・高安・恋重荷・羊。9 宮川・禪師曾我・濡衣・高野物狂・孫思邈。10 狹衣・太刀掘葵・室住・丸萱・大木。11 信貴山・権守・木幡・岩瀬・園田。12 不断桜・閑原与一・佐保川・比良・太世太子。13 鼓瀧・長兵衛尉・為世・熊野詣・東心房。14 浦鷗・武文・薄・綾鼓・横山。15 白主・調伏曾我・陀羅尼落葉・鞠・佐々木。16 吉野・真田・素拌桜・卷絹・長卿寺。17 菊士童・梶原座論・家持・愛空也・豹形猩々。18 箱崎・小林・松浦鏡・蛙・豊干。19 逆鉢・大聖寺・巖嶋・経書堂・星。20 西宮・吉水・松浦梅・思妻・盲沙汰。21 九世戸・今生経正・露・身元・千引。22 大蛇・惟盛・吉野天人・融通駒馬・河水。23 吉野琴・花櫛・濱平直・會盟・鷺。24 伏見・清重・六浦・隱岐院・和田酒盛。25 鷺・伏木曾我・千手寺・仲算・九穴。26 玉津嶋龍神・笠空都婆・總角・櫻天狗・千人伐。27 政徳西王母・恋松原・住吉橋姫・粉川寺・櫻塚。28 淡路・植田・弱法師・丹後物狂・合浦。29 帰雁・閑戸・初雪・六代・一来法師。30 御崎・硯破・貴布祢・守屋・韋馱天。31 香椎・志賀忠度・東海梅・思妻・盲沙汰。

**四十冊**

**四十六冊**

寺・六月祓・満仲。32 七夕・栗津采女・住吉詣・浦上・泣不動。33 八幡・祚園・現在七面・案字・七人猩々。34 馬融・村山・富士山・信夫・現在熊坂。35 橘・悪源太・范蠡・涿鹿・飛鳥寺。36 引鐘・今生巴・宗貞・婆相天・桜間。37 五筆・二度掛・七面・草薙・連獅子。38 真名井原・熊手判官・金剛山・鐘巻・第六天。39 鱗形・求塚・現在江口・籠祇王・鶴若。40 国柄・駒形猩々。

**9 国学院本番外譜曲**

**【形態】**写真。大型折型本。

**【書誌】**薄茶色共表紙(三〇・〇×二二・三四cm)。小型写真

(六・〇×九・〇cm)を台紙一葉に六枚貼付する。第一種の東

に法政大学用箋で「国学院大学図書館蔵 番外譜曲曲名目録

(アイウエオ順)と法政大学封筒に「国学院本 第一種・第

二種・第三種・第四種(1)・第五種・第六・七種」の曲名一

覧、合計六枚が付されている。また、第六・七種の束にも法

政大学用箋で「国学院大学図書館蔵 番外譜曲曲名目録」と

法政大学封筒に「国学院本 第四种(2)」の曲名一覧が付される。

**【内容】**国学院大学蔵本。全部で七種ある。それぞれ「第一

(~七種)までの符号が付される。江戸中期または後期の写しで、上掛け節付。福王系の本文が多いとされる。原本は第一種・五番綴十五冊、第二種・五番綴十九冊、第三種・三番綴二十八冊、第四種・五番綴五十八冊(内三番綴十四冊)、第

五種・十番綴十一冊(内十一番綴一冊、五番綴二冊)、第六種・五番綴三冊、第七種・二番綴一冊(「未1」「伝本解題」参照)。田中允写真では第一種八冊、第二種十冊、第三種七冊、第四種十五冊、第五種四冊、第六種・第七種一冊(全四十六冊)に写真を貼付する。

**【曲名】**

第一種(八冊) [1] 1 西の宮・清時田村・恒盛・初瀬詣・閑戸早川。2 諷訪・守屋・高野參詣・比良・東心坊。[2] 3 丁固・幽靈酒呑童子・満里・重蓮・安犬。4 菊地・八釦・現在忠則・七面・北野物狂。[3] 5 鶴の丸・花軍・乙平・岩瀬・雪頬朝。6 三井・齊藤五・東海寺・母衣・二度掛。

[4] 7 玉津嶋龍神・親任・飛鳥川・安達静・権之頭。8 鶯・黒川・宮城野・安字・吉野三位。[5] 9 法海寺・末松山・人形・松浦物狂・飛加見。10 玉鉢・火鉢・笠空都婆・笙・野口。[6] 11 長興寺・藤崎・守・太刀堀・花櫛。12 明智討・朝比奈・経嘗堂・磯崎・鞍馬。[7] 13 豊國詣・堀兼井・木靈浮舟・婆想天・熊手判官。14 柴田・磯松・温泉寺・鞆・近平。[8] 15 九六玉・高野敦盛・家持・盲沙汰・吉

第二種(十冊) [1] 1 室山・豊干・墨染桜・満中・吉野静前。

2 御崎・真田・薄・當願暮頭・佐々木。[2] 3 身延山・範

頬・かはづ・神崎・桜間。4 龍神伯楽・鶴岡・濡衣・身壳・會盟。[3] 5 八幡・志賀忠則・長柄・名越祓・大瓶猩々。6 不断桜・野干・鷺・空也・飛鳥寺。[4] 7 巴蘭・貞任・

現在江口・兼元・范蠡。8 水尾山・侍従重衡・芳野夫人・御妨曾我・空腹。【5】9 吉野詣・小林・総角・柳・猩々前。

10 聖德西王母・求塚・松浦梅・橋姫・愛若空也。【6】11住

吉少尉・二人神子・鶯・逢坂物狂・御台巴。12 富士山・実檢

実盛・雪鬼・木幡・孫思邈。【7】14 佐保川・栗津采女・

露・聾人自然居士・連獅子。15 仲算・長兵衛・初雪・熱海・

楠。【8】16 橋天狗・鈴鹿姫・思妻・ひつし・信宜山。17 武

王・行基・玉水・女沙汰・河水。【9】18 真井原・西寂・楳

塚・隱岐物狂・橋弁慶前。19 藥師・鶴若・恋松原・浜平均・

一来法師。【10終】20 浦鳴・楚佐・野寺・鷺鷺・星下。

第三種(七冊)【1】1 鐘引前・治時・和田酒盛。2 高雄・現

在美盛・稻荷山。3 花盜人・昔男・禿物狂。4 花美童子・小

倉御幸・猿通寺。【2】5 紙屋川・一夜天神・七人猩々。6

花咲・武藏野・鬼界嶋。7 松竹・上宮太子・上官太子。8

雪・雪女・龍。【3】9 小倉山・桐壺・水汲。10 待宵小侍

従・更科・住吉物狂。11 由良物狂・博多物狂・倭國。12 近江

八景・阿古屋松・卒都婆流。【4】13 蔽廻り・濱土産・西国

下。14 いろは・二本杉・高野巻。15 現在善知鳥・現在桧垣・

現在松風。16 劉白倫・神崎時雨・瀧文学。【5】17 太平樂・

人丸・山本小町。18 雲林院小町・音羽小町・清水小町。19 踏

乘・躰躅の岡・野中清水。20 黒谷詣・甘糟・餓鬼。【6】21

箱根龍神・藤・袖の湊。22 小夜衣・高貞・濱田。23 玉椿・忍

摺・大黒。24 玉鳴川・漂漂・三河猩々。【7終】25 寂光院・

蓮花童子・甲斐塚。26 梅闌・衣被巴・小栗。27 御室八景・四

国落・板敷山。28 玉津鳴小町・九十賀・五輪碎。

第四種(十五冊)【1】1 朝日天神・総角・明石上・饗庭・愛

宕空也。2 飛鳥寺・飛鳥川・安立靜。3 阿古屋松・朝比奈・

熒海・栗津采女・雪竜神。4 稲荷・岩神・軍武王・市人・今

和泉。【2】5 伊奘諾・板敷山・生捕盛久・磯松・磯崎。6

異国退治・石神・伊豫之湯。7 以呂波・育王山・一夜天神。

8 鏡形・宇治橋姫・鶯・空蝉・浦下部。【3】9 神有月・餓

鬼・海経太子・兼元・蛙。10 香椎・笠取・形見巴・紙屋川・

河水。11 鹿鳴・影山・笠置山・禿物狂・甘糟。12 金沢猩々・

鐘引前・神崎時雨・神崎・薺萱。【4】13 辛崎・景季・兼実・

14 吉備・京妻・桐壺・菊・菊の下水。15 貴布祢・経書堂・金

山寺・菊地・清重。16 行基・行幸・衣被巴。【5】17 黒池竜

神・九十賀・楠木・空也・駄馬。18 草雞・九穴玉・黒主・黒

川・熊。19 現在松風・現在敦盛・現在桧垣・現在錦木・現在

善知鳥。20 木幡・五倫碎・権頭・金比羅・小尉。【6】21 小

林・小式部・木靈浮船・金剛山・琴。22 桜間・佐国・三國傳

來・西國下・西寂。23 佐知・小夜衣・狹衣・更科・西行西住。

24 篠村・信夫・四國落・鳴廻・七人猩々。【7】25 上宮太

子・上官太子・獅子・獅子王・四天王寺。26 松竹・松浦梅・

松山。27 諏訪・須磨寺・摺袈裟・薄・鈴虫。28 西岸居士・青

塚・石竹・閑原与一・千手寺。【8】29 卒都婆流・孫思邈・

空腹・楚佐・袖の湊。30 大黒天・太施太子・瀧文学。31 太刀

堀・篭・七夕・太平樂・龍口。32 玉津鳴・大内裏・鷹・玉

水・太子。【9】33 玉取・玉鳴川・玉鉢。34 重運・千葉助・

王母・室山・佐保川・栗津采女・権天狗・和泉式部。6 明石  
上・更科・小式部・鈴虫・上官太子・宮城野・雪・住吉詣・  
恋草・人丸。【3】7 人形・松竹・西寂・吉野夫人・兼元・  
松浦梅・御坊曾我・満仲・筆祇王・志貴山。8 水尾山・比  
良・千葉助・篠尺八・惟盛・饗庭・現在美盛・楚佐・思妻・  
磯崎。【4終】9 浦鳴・末松山・花軍・小尉・現在忠則・  
篁・温泉寺・朝比奈・吉野三位・當願暮頭。10 横山・婆想  
天・住蓮・齊藤五・苅萱。11 言沙汰・玉鉢・親任・花孝養・  
高雄。

#### 10能楽研究所蔵 五百番本(抄)

##### 〔形態〕紙焼写真。

〔書誌〕写真サイズ(八・二×二二・一cm)。箱入り。「園田ノ

一部拡大」と鉛筆書きされた紙焼きが箱の中に四枚ある。

〔内容〕法政大学能楽研究所蔵本。筆者不明の觀世流譜本で五番綴九十五冊、四百七十五番を収める。五番綴百冊五百番であつたと推測されている。書写年代は不明だが節付などから元禄以降、江戸中期のものとされる〔未1〕「伝本解題」、「能研」十三頁、解説参照)。能楽研究所開架の〔未1〕十一頁に、(五百番目第一冊「菖蒲」の奥に「人皇六十代朱雀院承平カ寛保二亥ノ歳■八百十三年ニナル」とあるから、寛

#### 五袋

保二年(一七四二)頃の筆写らしい」と書込みがある。

**【曲名】** 1 薬師・富士見小町・笛物狂・親任・濱平釣・千人伐。2 高野敦盛・楚佐・現在忠度・大瓶猩々・横山・太刀堀。3 園田・吉水・忠見・木幡・秩父・比良。4 岩洞・兼元・愛宕空也・宇治橋姫・身賣。5 ユウレイ横笛・第六天・愛壽・蛙・室住・菅丞相。

### 11 福王茂十郎氏蔵番外謡本各種

#### 十六冊

**【形態】** 複写。半紙本。

**【書誌】** コピー機にてB4判に複写し、袋綴したもの。複写日を記した紙で咽を包み、ホツチキス留めした仮綴本(二十五・七×八・五四)。咽を包む紙には「福王茂十郎蔵本コピー／1990／1.28／田中允誌」(蜻蛉)「福王茂十郎蔵本コピー／1990／3.16／田中允誌／浜玉トヨミチガエヘシタメ」(浜猿)などの田中允識語がある。青ペンでの書き入れあり。

**【内容】** ワキ方福王茂十郎氏蔵の番外謡本。「未続20」には、福王家には三種の番外謡本が所蔵されていることが記されているが、本資料はその内の2が十三冊、3(謡物集)が一冊の複写らしい(福王氏蔵本の全容については未調査のため、定かではない)。2は一番綴・三番綴・四番綴・五番綴・六番綴の混合らしいが、本資料はその内の一番綴十一冊、四番綴一冊からなる。ただし、一番綴本には少なくとも二種の手があり、三種に分類することが適切かは存疑。唯一の伝本である(蜻蛉)「未続12」に翻刻など珍曲が多い。中でも四番綴

本の「開唯・葛覃・卷耳・樺木」は、表紙に「國風十五篇之中第一周南之部」とあり、無章句の試作曲ばかりが所収されている(「未続7」に紹介)。原本には「服部宗碩御本にて」(蜻蛉)、「服宗碩御本にて」(白狐)、「盛親章句/服宗碩御本にて」(影山)といつた奥付があるが、「服部宗碩」は福王茂兵衛盛信のこと。原本は享保前後に成立したか。

### 12 江崎本番外謡曲(抄)

#### 二十九冊

**【形態】** 透写本。半紙本。

**【書誌】** 茶色表紙(二六・三×一九・〇四)。左肩長形題簽に曲名墨書。本文料紙は薄様紙。全丁間紙あり。一丁目に目録を付す。田中允奥書「右江崎金次郎氏御所蔵本ヲ以テ抄写了／昭和十六年六月三日 田中允識」(一冊目)。紫色角裂あり。帙入。田中允(穂積光晴)宛江崎正左衛門書簡三通を含む。

**【内容】** 姫路在住の福王流ワキ方江崎家に伝わる番外謡本の透写本。「梗日本二同シキ故本文省略」(四国孝養)「貞享三年版本ニ同シキ故本文省略」(関原与二)のように、かなりの曲を割愛して書写している。透写本の文字遣いを見る限り、少なくとも三種の筆跡が混ざっており、所収曲数もまちまちである。原本は複数の人物によつて、長期にわたつて書写されていた可能性がある。原本にある奥書は以下の通り( )

茶封筒にまとめる。封筒には「江崎家由緒書」と記される。田中允が江崎氏に江崎家先祖に関する質問をしていたらしく、その応答が書簡にしたためられている。

#### 八袋

### 14 吉田本五番綴謡本(抄)

**【形態】** ニコピストト写。仮綴。

**【書誌】** 両面にニコピストで写した用紙(二一・〇×一四・八四)を仮綴する。転写が薄いため全曲黒インクでなぞり、百番ごとに二つの袋に分けて收める。「七百番目(一)」に「吉田本(濱土産)」「吉田本(一言主)」二曲のB4判コピー、「八百番目(一)」に「桜之池・恵美酒祭・蛭子」(詳細不明)のB4判コピーを同封する。二百九十八曲を所収する。「九百番目(一)」に「15を同封。

**【内容】** 古典籍蒐集家として著名な吉田幸一氏の旧蔵本で、現在関西大学図書館に所蔵されている福王系謡本の一部。原本は五番綴百六十冊八百曲と別冊(福王盛有新作曲。五曲所収)からなり、百番ごとに表紙の色が異なる。九百番十九冊に元文四年七月七日の事件に取材した「鰐」が收められることや、別冊の「真字謡田村」に「元文三年午七月日 福王八代目茂右衛門盛有隠居 長束常信書之 七十六歳」という奥付がある点から、元文四年以降に纏められたと推測される。本資料はその一部をまとめたもの。「未3」参照。

### 59 田中允文庫蔵書目録上(付解題)

#### 13 江崎金治郎氏書簡・江崎本奥書写真

#### 一袋

江崎金治郎氏書簡二通と江崎本の奥書部分の拡大写真数枚を

占・高野巻・躊躇・革袴・和歌浦・祝子・曾我・箱根竜神・柴田・兼美・臥塚・富士見小町・磯上小町・足引・祇園・八幡弓・赤沢曾我・姥ヶ火・六角堂・箱根曾我・小夜中山・青柳・菖蒲・花見曾我・袖の湊。

六百番(二)櫃切曾我・時秋・二見浦・鶴林・京妻・劉季皇帝・昔男・紫式部・長伯仙人・根元竜田・菊・忘草・金沢猩々・宝競・花美童子・夢想松風・鸚鵡僧・海経太子・八重桜・吉次・雪山・白河・桜之池・弘計億計・花宴・柳・七十二候・金玉羽衣・亀井・時雨・紙屋川・花盃人。

七百番(一)七種・四季・人丸・水汲・近江八景・高雄・豊国詣・篠村願書・浜土産・時有・虎石・板敷山・根芹・変化信之・歌葉師・三笠山・河原太郎・休天神・姫切・三尾龍神・神渡・鈴落・山住・厚婦・竈宮猩々・江鳴童子・春日野露・堺舜・鬱判官・嵯峨女郎花・禿物狂・大河下・将門・辛崎・九十賀・慈覺大師・伊呂波・三社詫宣・武藏塚・大磯・孟宗・一言主。

七百番(二)岩根山・成経・高貞・泣鬼・大黒・多手利・恋塚・語酒呑童子・飯野・完戸・錦織・鐵鬼・芦屋弁慶・藤浪・人穴・紅葉・野中清水・輪管・太平樂・筐敦盛・佛桜・農龍・五節・義興・玉椿・江豚・百足・武藏野・甲斐塚・國玉・知忠・中将姫・鉢虫。

八百番(一)柳津・琴・現在女郎花・紫上・金毘羅・小栗・法花竹・黒主・隠里・御井・森草・竈馬・法花会・西国廻・吉備・鳥屋野・鳴渡・翁草・笈搜・恋妻・饗庭・須磨寺・鶴龜

之中・文僧都・玉縄・笠寺・市人・蛭子・景季・石竹・常盤問答・西国下・池上・黒谷詣・布袋・豊原寺・軍武王・明石上・住吉物狂・惠美酒祭。

八百番(二)伊弉諾・勧進文学・鳥部野之露・大内裏・竜神浦嶋・幽霊曾我・幽霊小町・三之船・平太・小式部・推古桜・鷦之草茎・星降・黒池竜神・唐反魂香・羅漢・鑑重衡・鬼界嶋・誕生寺・渡唐空海・忠顯・芳野小町・東夷・北白川・字賀神・似菊・梅乙女・法藏比丘・桑露杉・許由・白狐・児塚・鯉魚・御渡・十番斬・廿五菩薩・喜慶。

九百番(一)妓女谷行・夢見小町・小鍛治前・正成・佐和・生卒都婆・乱舞猩々・若草・梅閑・忍摺・鳥羽玉・佐知・地獄廻・名古屋・薄雪・奥院・道家心・日光山・鎌田・布引滝・井手詣曾我・伶倫・布引松・真鳥・漁翁発心・土偶人・信田・九日・福井滝口・鏡池・松尾山・古市竜神・周防内侍・莉軒・舟岡・大原入・紫陽山・熱田竜神・山中常盤・蜻蛉・和光。

九百番(二)鬼骨寺・芳野行幸・飛彈工・醍醐・戻橋・御法・茶教・現在頼政・小倉山・宇治物狂・夢一字・吉備津宮・蜜語橋・桜之前・花丸・欣求淨土・丸馬・方浦・花西行・文車・雷之鳥・睦月桜・屋嶋寺・春之夜・御室・細谷川・竈之神・闕羽・月之秋・百紅葉・蓮花童子・祇園詣・足引山・篠田森・花咲・鳴立沢・真如堂・鯨・三人孝・時雨物狂・九品淨土・油火明神・朝盛・壬生寺・明星山・竜崎。

## 15 吉田幸一氏蔵福王盛有新作五番

### 一冊

【形態】透写本。半紙本。

【書誌】壺絵模様入白表紙(二三・五×一七・二cm)。仮綴。

題簽あり。本文料紙は薄葉紙。半葉七行。五番綴。原本の奥付「右謡五番福王八世隱居/長東常信作也/平是」とあり。

田中允奥書に「吉田幸一氏蔵 福王流九百番写本二/付隨スル福王盛有新作五番所収本ヲ/透写了/」表題ハ原本ニハガレタ跡/アリ 仮二補フ/昭和十八年十月十五日/田中允識」とある。14の「九百番(二)」に同封。

【内容】福王八世茂右衛門盛有作の番外譜曲。吉田本別冊として收められ、享保・元文ころの作とされる。鴻山文庫本譜

番組・江崎本諷名寄国附でも「福王盛有作」とする。原本に

ある「長東常信」とは福王宗家盛有が、家督を福王茂右衛門

盛勝に譲ったのち、改名した名前。もともと長東家からの養

子であることに由来する。「出雲路」のワキ語りは「脇語抄」(寛政七年江崎直充写、江崎家蔵)にみえる(未3・4参照)。

【曲名】出雲路・累・足立野・葉山之露・衣笠松。

## 16 大西本番外謡曲四種(抄)

### 四十三袋

【形態】写真。袋入。

【書誌】一一・一×七・七cmの写真。第一・三・四種は原本の二冊分、第二種は全冊を写真店の封筒に收める。第五種は全冊分を茶封筒に收める。封筒には「大西本(1-1)」のよ

うに書名・種・封筒番号の表記と曲名を記す。

【内容】京観世五軒家の岩井家の芸を伝える大西家(大阪在住)蔵の番外謡本。この本については、すでに西畠実氏「大西家蔵番外謡本について」(『樟蔭国文学』七号、一九七〇年)と「未18」に紹介されており、第一種(一)番綴、二十四冊・明和五、六年の年記をもつ曲あり)・第二種(二)番綴、二冊・第三種(一)番綴、六冊。「太本」に元文三年の年記あり)・第四種(一)番綴、五十二冊)・第五種(一)番綴、三冊。雜種をまとめた種)の五種に分類されている。「未18」によると、一・三・四種は福王系の譜本に属するらしい。

### 曲名

第一種 1 飛鳥寺・惡源太・座論・小林。2 龍懸山・泣不動・御崎・吉野琴。3 連獅子・文学・法海寺・五筆。4 猩々前・橋弁慶・簞・明静。5 蛙・玉津島・龍・和國。6 経盛・神崎・香椎・逆鉢。7 岡崎・鈴木・吉野・眞名井原。8 武文・馬融。9 住吉詣・貴布祢。10 空蝉・絃角。11 満仲・女沙汰。12 草薙・飛雲。13 雪鬼・恋松原。14 侍従重衡・小倉御幸。15 鞠・北山・馬乞・眞田・雪頬朝・隆魔。

第二種 1 薄・露・隱岐院・安乃字。

第三種 1 濱平鈞・鞠。2 小倉御幸・太木。3 稲舟・松浦鏡。

第四種 1 明石上・足引。2 生捕盛久・石神。3 市原小町・雲林院小町・猿通寺。4 小倉御幸・御駒乗。5 景季・笠寺・革袴。6 久米・黒池龍神。7 恋妻・小式部。8 小侍従・金比羅。9 鶯乃前・更科。10 十番切・鳴廻。11 上宮太子・西岸居士。

- 12 光帝・袖の湊。13 卒都婆流・高安小町。14 龍崎・誕生寺。  
 15 花自然居士・櫃切曾我。16 人丸・一言主。17 一本杉・富士  
 見小町。18 豊原寺・星降。19 細谷川・法花會。20 母衣・湊川。  
 21 夢想松風・鷺乃草茎・山吹。22 山本小町・八幡弓。23 幽靈  
 小町・雪女。24 良弁・六角堂。25 和國・久世(湖の八景・源  
 氏目録・座敷飾・濱萩・高野巻・明ほの・地主・五常)。  
 第五種雪 櫻井・こんた。

### 17 角淵本番外謡本

【形態】透写本。中本。

- 【書誌】唐草模様空押布目地濃緑色表紙(一九・八×一四・〇  
 cm)。横長題簽に曲名・冊順墨書。本文料紙は薄葉紙。半葉  
 六行。五番綴。原本奥付なし。田中允奥書「右番外曲二十一  
 冊百五番ハわんや店/主江島伊兵衛氏所藏本ヲ青寫/眞二寫  
 シソレヲ更ニ林香岸田幸枝/田中まさ子ノ二女史ヲ煩ハシ透  
 寫之了/原本ハ名古屋在和泉流狂言方故角淵宣氏旧藏ノ由  
 ニテ筆寫年/代ハ江戸中期以後ト推定セラル原本ハ/朱ニテ  
 校合補筆等アリシモ青寫真/ノタメ總ベテ墨書セリ/昭和十  
 四年九月廿日/田中允識」。薄緑色角裂あり。

【内容】名古屋在住の和泉流狂言師角淵宣翁が所蔵していた  
 ことから「角淵本番外謡曲」と称され、「番外謡曲」(正・続、  
 古典文庫、第三十三・五十七冊)に翻刻されている。五番綴  
 の謡本で観世流節付。文化文政頃の筆写と推定されている。  
 現在は鴻山文庫藏本(三・三)で、田中允氏は「樋口本番外曲」

### 二十一冊

二十一冊

- (国語と国文学)一九四一年二月号)「吉川本番外謡曲」  
 (『国語と国文学』一九四三年六月号)において「江島本甲」  
 として紹介している(番外謡曲解題参照)。
- 【曲名】1 布引松・小夜の中山・現在松風・舟岡・春日神子。  
 2 九日・幽靈曾我・式子内親王・御菩薩池・布引瀧。3 一夜  
 天神・涿瀧・丸西行・山中常盤・和歌の浦。4 鶴丸・生捕  
 盛久・久米仙人・龍・鈴落。5 財世太子・實検実盛・空蝉・  
 横塚・飛雲。6 劉季皇帝・次信・紫野露・更科・梅闌。7 箱  
 根曾我・小夜衣・紫式部・地獄廻・火鉢。8 九世渡・禪師曾  
 我・虎送・為世・岩舟。9 三尾・二人神子・袖乃湊・現在女  
 郎花・櫃切曾我。10 不斷桜・閑原守市・宗貞・佐保川・大瓶  
 猩々。11 現在七面・行家・藤・求墳・横山。12 鳴門・高館・  
 琴・現在道成寺・莉軒。13 松尾・うろこかた・落葉・反魂  
 香・巖島。14 御佐尾・秩父・昔男・那須・獅子王。15 今生  
 巴・調伏曾我・犀・二度掛・鳥帽子折。16 鹿嶋・馬乞瀧口・  
 雪翁・乱舞猩々・七人猩々。17 香椎・清重・胡蝶・住吉詣・  
 枕童。18 澄漂・祝子曾我・小侍従・菴六代・唐反魂香。19  
 一本菊・躑躅岡・阿弥陀の峯・伶倫・渡唐空海。20 龍頭太  
 夫・忠信・高安・羊・七面。21 鳩渡・母衣・鶯鶯・時雨・樊  
 会。

### 18 能勢本番外謡曲

【形態】透写本。半紙本。

- 【書誌】紺色表紙(二三・六×一六・五cm)。中央に横長題簽。

### 四十冊

四十冊

冊順墨書。五番綴。本文料紙は薄葉紙。半葉七行。原本奥付  
 なし。田中允奥書「右番外曲四十冊貳百番ハ能勢朝次先生/  
 ヨリ挿借シ林香・岸田幸枝両女史ヲ煩シ透/寫之了 同本ハ  
 中二挿入セル書簡ニヨリ野々宮子爵家旧藏本タル事明カナリ  
 原本/筆寫年代ハ江戸中期以後(文化・天保)/ト思ハレル原  
 本ハ表紙ニ曲名ヲ記セシノミニテ/本文第一枚目ニハ曲名ヲ  
 記サダレド製本ノ時/紛ル、ヲ恐レ假ニ挿入セリ/昭和十四  
 年五月十四日 田中允識」。薄青色角裂あり。十冊ごと四帙  
 に収める。田中氏が曲名を記した、「盛親章句」と対校した  
 とおぼしき原稿用紙三枚が一帙目にある。

【内容】能勢朝次氏旧藏の番外謡本で、以前は野宮旧子爵家  
 が蔵していた。上掛り節付で江戸後期の写本とされる。「盛  
 親章句」と註した曲が相当あり、樋口本にほとんど一致する  
 ことから福王系と考えられている。能勢本は戦災で焼失して  
 おり、原本が失われているため、貴重な資料と考えられる  
 (末1)「伝本解題」参照)。なお、樋口本との重複は六十曲。  
 この点については田中允「樋口本番外曲」(国語と国文学)  
 一九四一年二月に詳しい。

- 【曲名】1 雪鬼・西寂・橋・橋弁慶前・吉野静前。2 八幡・  
 吉田・露岡・西行桜・仲算。3 浦嶋・武王・橋姫・素盞・濱  
 平均。4 吉野天人・志賀忠度・女沙汰・身賣・羊。5 孫思  
 邇・連獅子・侍従重衡・墨染桜・南木。6 御崎・河水・内  
 海・濡衣・寄合猩々。7 室山・佐保山・蛙・北山・鷹。8 志  
 貴山・巖洞・太子・愛宕空也・五筆。9 范蠡・桜間・涿瀧・  
 貴山・巖洞・太子・愛宕空也・五筆。

- 33 豊國詣・村山・楊賀・東心坊・那須與一。34 法界寺・閑  
 寺・華軍・安達靜・比良。35 伸遠・影山・親書・磯崎・鳶。  
 36 丁固・次信・吉野琴・鞠・鞍馬。37 育王山・守屋・住吉  
 詣・松浦物狂・獅子王。38 藤崎・童童・堀兼之井・家持・屯  
 興寺。39 少尉・吉野・野千・神崎・御坊曾我。40 水尾山・思  
 妻・鶯・相坂物狂・栗津采女。

〔形態〕透写本。中本。

〔書誌〕菊牡丹唐草模様空押布目地黒表紙(一七・八×一二・八四)。銀箔色紙散らし横長題簽に曲名・冊順を墨書き。所収曲目録一丁。本文料紙薄様紙。全丁間紙あり。半葉七行。原本奥書なし。最終冊に田中允興書「右番外譜曲五百五番一百冊ハ伊達興宗伯爵家藏本ヲ以テ透写了/原本ハ廿冊(百番)毎二夫々六百番七百番八百番九百番十番ト墨書きセル箱ニ収メアリ(九百番ノミハ廿一冊百五番ナリ)/各冊番号見返シノ題名ハ共原本ニハナクコレハ便宜上余ガ付ケシモノナリ/全百一冊ノ一部ハ透写シ一部ハ青写真ニ/トリ更ニ再字セシモノニテ五月七日ヨリ始メ七月十一日ニ至リテ全透写完成セシナリ余及田中まさ子・石井わえ子三・人方透写二従事セシナリ/昭和十六年七月十一日/田中允識/追記/第一百冊目ニ卯花物狂アルコトヲ発見セリ/即第百冊ハ標題五番内容六番ニテ總計五百六番ナル/昭和十七年二月三十一日/田中允識/六百番(二十冊)、七百番(二十冊)、八百番(二十冊)、九百番(二十冊)千番(二十冊)ごとに帙入り。全五百六曲所収。

〔内容〕五番綴の謡本(百番目)〔日蔵上人組〕のみが六番綴。節付けが粗雑で判断が難しいが、観世流謡本だと思われる。仙台伊達家に伝わっていた謡本で、伊達伯爵の東京邸で透写・撮影作業を行つたらしいが、戦後は所蔵先が不明となつてゐる。本書については田中允が『未31』で詳細な解説

を加えており、同書「十五」「三十一」にかけてすべて翻刻している。解説によれば、原本は六百番・七百番に区切られた本箱に收められていたらしく、本資料はその分類に従い転記に收める。江戸期に出版された五百番本所収曲以外の遠い曲ばかりを集めた謡本である。「国書総目録」によると、(青柳塚)〈川中島〉菊川のようすに本資料が唯一の伝本である曲もあり、番外曲研究には欠かせない資料であろう。

#### 〔曲目〕

六百番1五鈴天人・松浦五郎・難波月・笠掛・玉崎猩々。2清澄寺・太刀造・川瀬乃岩・七堂供養・吉野の川鮎。3神山榊・氏清・あけほの・尉か鳴・春雨天狗。4えのうつほ舟・安倍宗任・おのへの前・戸隠山・玉川曝。5授戒鬼女・森戸・白瀧乃前・駒か谷・兼好桜。6八重山天狗・岩石おとし・あやめか谷・庭鳥西行・七乃夕部。7志渡寺・ふるつか・さむしろ・明州帰帆・仏力判官。8師長・小熊太郎・おかの早蕨・万歳羽衣・颯々猩々。9白はたの峯・直家・おふの浦・座論・舞楽猩々。10立田童子・うき鳴か原・山吹川・岩代物狂・出雲猩々。11吉田詣・南都落・海士か岩・野渡翁・二上山。12持真・ともし夏虫・きりきりす・朝日の紅葉・越路乃閑。13金山天人・真鳥・秋乃千種・汐くみ狂女・三人孝。14自然仏石・唐琴演・枕こひ・松王とうし・はな草。15艶女・鳴乃わかれ・露の月・竹取山・磐若櫛。16千里月・荒神宮・外濱念佛・双子なり平・帰落玉かつら。17大原西行・横山入・浅姫・わかな乃野邊・逸馬おくり。18かは鳴狂翁・二上山。

度・あはうみ舟・佛乃井・愛樂堂・放生会。  
七百番20箱根天狗・三保乃景・難波かたり・二度童部・鳴ねくら。21雄鳴・酒とけの神・為子・おはりいけにえ・かんざし乃原。22かなやき・三上藤太・有馬のふし・孝婦・司馬温公。23今八幡・鳥羽乃沙汰・生野姫・相坂うかれ女・橘。24野わき乃前・和田・妻恋塚・志賀仙人・位山。25鼠宮・月見頓阿・飛鳥巖・ひは彈・鉄人。26由良乃長・つくし乃浦風・鶴女・ふし乃猪・久米路。27谷川西行・千尋の濱・衣笠姫・かにか窟・やすらまる。28伊豆明神・信貫合戦・廣沢女・高津仙女・白鳥。29白根嵩・八百比丘・佛乃笠・ふか草庵・辛崎天人。30二見宮・遠矢源太・いもせ乃池・栗栖野・かた思ひ。31湖水龍神・なへかぶり・谷川・里めくり・おし鳥。32和哥の浦浪・むこ乃梅・不二馴姫・むしの恨・かつらき女。33神田神・篠塚・井手乃女・雪山山伏・空わらへ。34けさ御前・なはて楠・明石乃うへ・笠取狂女・湯原。35生田女・魂静・はふり子・塩かまあとひ・二村山。36哥合遊行・木乃下・からころも・蓬莱宮・芥塚。37とぶ火・よとの川はし・無庵上人・すけの小笠・糸乃杜。38猿沢龍神・裾野塚・若狭前・佐保川狂女・くま乃詣。39伊吹明神・女郎花山伏・住吉女・堅田漁夫・宮城野萩。40ぬれころも・矢橋女・おにゆり・箕面龍神・すま琴。  
八百番41濟證寺・一武・忍ひ乃岡・鷺谷・蛙。42石清水詣・くさかり忠度・きく川・かつらき山姥・思野花。43かしま遊

行・熊崎四郎・七面か渕・岩屋不動・ほたい寺。44御影山・くらま入・玉水・小鳥狩・柳西行。45富士上人・一夜あつもうり・ちよつるひめ・玉堀・ひわ音僧。46玉の宮・ちこのしみつ・あけほの桜・天目山・人穴。47月見龍神・いざめ巴・うき艸・初瀬物狂・さかさま川。48辛崎明神・こひ草・村霧・坂おとし・あま乃たく火。49あたしの・人かいふね・ひくらし塚・鳴海道心・あらい川。50地藏乃しま・梅津が谷・小かねつか・かささき・わかれ乃山。51松乃しぐれ・みのりの瀧・廻國念佛・すみれ草・御所物狂。52すは乃明神・ひこの山・姫の井・田こと乃月・たおや女仙人。53あらい不動・かつらき弁慶・鳥部野・風くるま・万靈和尚。54柏木右衛門・覚明・荻塚・あしげけ船・木幡物狂。55こや乃明神・小鷹・あねかさき・すみよし墓・白いと。56数珠堂・あつまの旅・おかげさきひめ・宮路物狂・田子の浦。57山姫・あた枕・梶洞・十五夜塚・矢剥女。58出塙龍神・こまあらそい・身すて松・す・木物狂・岩戸猩々。59ひらの明神・うつほ鳴・妹か池・羽風・哥念佛。60大峯天狗・はやうち文学・片葉のすすき・長柄乃はし・鳥井石。  
九百番61田舎三輪・衣川・蟬小川・黒木うり・傘僧。62早崎龍神・轟橋・隼人瀬戸・老馬・金印。63笠取山・金か崎・妹背山・とくろ物狂・蟾か谷。64柘榴天神・弓削源太・深草白馬寺・有馬座頭。66穗保明神・矢橋舟・臘清水・粉川寺・湖水月。67人丸塚・六地蔵・吉野山・白川閔・多田山。68宝

寺・立山・巫山・たこ薬師・いらご崎。69佐保姫・川中嶋・石竹・櫻が原・天橋立。70河内・硫黄嶋・解脱上人・高嶋・石・天狗倒。71岩戸山・戻り橋・御菩薩池・吉田狐・文学流。72鹿嶋詣・暗峠・井手玉川・馬頭婦人・龍燈。73生玉・瀧詣・遠里小野・蘿垂山・渋谷。74ぬれ衣・蹉跎寺・五百川・元三大師・雲山嶽。75諸葉明神・柴舟・室の屋嶋・六角堂・三本杉。76清澄・あやめの戦・凱門山・坂屋戻・紫野。77曾根松・赤間か関・広澤池・摩耶山・銀猫西行。78安井・浜の堂・葛堀・杖橋・右衛門嶽。79武内臣・百万遍・初寅詣・松尾浦・白雲山。80網野・木劍・関明神・專光寺・八剣明神。81那智瀧・十戸・亀わり坂・ね・仏・住吉浜。82あらひ龍神・かるも川・飛鳥寺・桜牧・吉野道成寺。83餅の宮・くりはし・白通和尚・松原道成寺・金塔。84白雲天人・円覚寺・うた・ねのはし(橋)・杉本・古郷月。85大六天・からると・遍照女郎花・ちつかのはし・荒行文学。86現在祇王・うき嶋太夫・籬か嶋・草枕・いなの笛原。87はたの川勝・弓削道堯・あねはの橋・つりふね・かるかやの閑。88かくや姫・あし曳山・比良の嶽・小倉塚・はしひめ。89むすみの宮・金王塚・はつねの杜・しほ路物狂・きぬ川。90不言姫・小袖こひ・いはての森・渡会物狂・夢野。91すま行平・一夜かけ清・待よひ・太刀造江・磐石天狗。92とみの小川・滴の杜・時雨小町・朝霞・千鳥川。93神かくら・一度のかけ・かほの池・よこ雲・むさう国師。94白玉龍神・義明・手すさひの池・下紐のせき・生田物狂。95八雲の宮・いつの三

**[書誌]** コピー機にてB5判に複写し、仮綴したもの。田中允の付箋には「観世流番外曲(20冊)／(紺表紙本・写本)一帙」とある。

**[内容]** 観世流番外謡本で五番綴二十冊、百番を収める。上掛り節付で江戸後期の写本とされる。「未」の解題(紺表紙本)には「家蔵」とあり、紙焼きをみても各冊一丁目に田中允藏印がみられる。現在の所蔵先は不明。

**[曲名]** 1飛雲・橋弁慶前・和泉式部・枕士童・檀風。2稻荷・實檢賀盛・小倉御幸・求塚・駒形猩々。3兼實・現在熊坂・身延山・箱崎物狂・明静。4住吉語・一来法師・山本小町・横山・龍神七夕。5墨染櫻・長兵衛・隱岐院・玉取・降魔、6富士山・花軍・恋松原・教訓・韋駄天。7壬生寺・泣不動・高安・刈萱・猩々前。8第六天・鶴若・蛙・鐘巻道成寺・植田。9那智文学・西寂・露・刀・橋立。10西岸居士・鈴木・花盗人・反魂香・犀。11神有月・吉野忠信・虎送・千手寺・草薙。12星・馬乞佐々木・誕生寺・鬼界嶋・愛宕空也。13七夕・鶯・薄・文僧都・菅相丞。14丁固松・火鉢・現在江口・侍従重衡・羊。15聖徳西王母・涿鹿・貴ふね・水無月祓・切兼曾我。16龍神白楽・信夫・小式部・上人流・龍ノ口。17作國・伏木曾我・實方・籠祇王・寄合猩々。18式三番・悪源太・雪鬼・聾入自然居士・満仲。19五筆・闇ヶ原・橋姫・合甫・烏帽子折。20橘・貞任・松浦鏡・女沙汰・大瓶猩々。

郎・真野・かや原・とたえの橋・鹿かり。96影向瀧・四国落・わすれ水・由良物狂・おり姫。97風の宮・かり田丸・いはれの野辺・よりのはし・つくもかみ。98蓬莱山・仏力景清・手枕野・鳴神・かたこひの岡。99春日山・和田・袖の露・あくた川物狂・音羽山。100日藏上人・白きく・谷物狂・八重かき・雲山天狗。101もうこしか原・讃岐院・恋瀬川・四天王寺・つたの細道。

## 20 能楽研究所蔵上掛け番外謡本二種

二袋

**[形態]** 紙焼写真。袋入。

**[書誌]** 八・一×二一・〇 cm の紙焼写真。写真店の封筒に曲名を記す。

**[内容]** 田中允が「能楽研究所蔵寛政本」と一括する二十冊二十三番の上掛け番外曲の内の二曲(「未20」参照)。この一群が「寛政本」と称されるのは、この内の「松虫」冊に「寛政元己酉王六」とあるためだが、本資料が寛政頃の成立である確証はない。江戸後期筆であるのは確実。本資料の二曲は他に伝本がない珍曲。能楽研究所資料名「上掛け番外謡本六種」、請求番号(一二六九)。

**[曲名]** 閃體の尼・かばさくら。  
**[形態]** 複写。

## 21 観世流番外謡曲

二十冊

**[形態]** 複写。

**[書誌]** 観世文庫旧蔵上掛け番外謡本二種  
二十八枚

**[形態]** 紙焼写真。袋入。

**[書誌]** 一二・〇×一六・三 cm の紙焼写真。一封筒に収める。封筒に「観世宗家本・版本宮城野外」と記す。

**[内容]** 現在、観世文庫に所蔵されている上掛け節付番外謡本二種の紙焼写真。一種は江戸後期に刊行されたと思われる「宮城野」で、もう一種は四曲の詞章の一部のみをまとめたもの。

**[曲名]** 宮城野(全詞章)・不斷桜・岡崎・狹衣・大木(以上、詞章の一部のみ)。

## 22 観世文庫旧蔵上掛け番外謡本二種

二十八枚

**[形態]** 紙焼写真。中型横本。

**[書誌]** 薄茶色表紙(一三・九×一九・九 cm)。表紙に「朝日本(甲「種を示す」)(一「冊順を示す」)(一・三「書写した原本冊順を示す」)」と所収曲を墨書き。本文は料紙に紙焼写真を貼る。七十八冊所収。帙入り。帙題簽に「朝日本番外謡曲抄(寫真)全十一冊 甲十冊 乙一冊」と記す。

**[内容]** 大阪朝日新聞支社旧蔵で、現在大阪府立図書館中之島図書館朝日文庫に所蔵されている上掛け番外謡本五番綴本の紙焼写真。「大阪府立図書館蔵「朝日新聞」文庫目録」(大阪府立図書館編、一九七〇年)によると、朝日文庫には三種(第一種・二十冊百曲、第二種・二十冊百曲、第三種・三十冊百五十五曲と曲舞集一冊)の五番綴番外謡本が所蔵され

ている。田中允はその第一種・二種を併せて「甲」とし、第三種を「乙」としている。本資料の甲・十冊には七十二曲、乙・一冊には六曲を所収する。原本は江戸後期の書きと目され、第一種に寛文三年刊の「熱海」が所収されているので、少なくともそれ以降の成立となる。第一種甲には現存唯一の伝本である「櫻忠信」(皿山)や、第二種には伝本が僅少な観世信光作「朝忠」などが収められ、資料的価値が高い曲も少なくなっている。

**【曲名】** 1 阿古屋松・須磨寺・阿俱留王・塩谷判官・扶桑国  
稔代記・文学摺・弓傳記。2 薬師・篠村・水汲・唐王代記・  
九品・武隈・正成・鳥栖。3 武将傳記・九馬・上田乘騎卷・  
白・醍醐・夢想松風・雪折竹・堀兼の井・扶桑國集記。4 誉  
田・誕生寺・虎石・屈原・十番切・鳥屋野・朝忠。5 劍之  
巻・六浦・祇園沙汰・皿山・一番猩々・山水・妙瀛水。6 朱  
丹桂・白うる里・正成・三笠山・寂光院・白詠・御輿振。7  
黒谷詣・近江八景・櫻忠信・両国下・松尾山・追掛朝比奈・  
現在熊坂。8 郎女龍王・花宴・浅茅堂・染井・法界寺・楠  
待宵小侍従。9 横笛・寒山・雪女・兼好塚・花美。10 神樂  
岡・七草・小倉山・公任・巴蘭橋・文僧都・田上・高野琴。  
11 七人猩々・雪・駒形猩々・太瓶猩々・一番猩々・日本琴。

24 関大本番外曲(抄)  
**【形態】** 紙焼写真。包背装中型横本。  
**【書誌】** 鶴絵印刷の鳥の子色表紙(一五・七×一九・一 cm)。

#### 24 関大本番外曲(抄)

一冊

**【曲名】** 鶴絵印刷の鳥の子色表紙(一五・七×一九・一 cm)。

写真は不鮮明な点が多く、別に同封された一组は後から撮り直したもののように。田中允識語に「酒田市立光丘図書館光丘文庫」(本間家の本間光丘収集本を酒田市に寄付せしもの)蔵本を伊藤正義氏撮影せしものなり/昭和四十一年十一月十三日 田中允識」と所蔵先などが明示される。また原本「荘内謡曲中入間語 全」は別冊だが、本冊は合冊。

**【内容】** 山形県庄内地方を題材に採った謡本で、いわゆる「所謡」、御当地能に相当する(『未続四』)「五所王子」解説に詳しい)。また西野春雄氏「享保前後の新作能—近世謡曲史考—」(『能楽研究』七号、一九八一年)にも言及があり、作者坂尾幽栖について「万年。文久三年歿79歳」としている。

宝生流節付五曲を収録し別冊間狂言本が付く。「荘内謡曲原本一丁裏の「題 荘内謡曲 卷首/予隱棲の餘閑荘内謡曲五章を作り関口朝比奈/小南三子の節付を乞得て一冊の謡本となししぬされと/乱舞謡曲をも習得し事もなき予か作文あれハ其式/法にはつれ又ハ文句の翻訳も多かるへし只識者の笑艸/とならん事を恥るにこそ/嘉永三年戊申春 阪尾幽栖」(写真三枚目)が転写されている。「大地踏」「関口正右衛門節付」「十五里原」「小南光右衛門節付」「玉松」「小南光右衛門節付」「五所王子」「朝比奈判介節付」「羽黒山」「小南光右衛門節付」と曲末に節付者も記す。「中入間語」原本奥書の「予隱棲の餘閑戯に荘内謡曲五章を作りしに或人/のいへるにて、中入間語なけれハ能になりかたし、とてもの/事に間語をも作られよといハれしにて、右五曲の間/語並小舞の文

中央横長題簽に曲名と原本所収冊番を墨書き。打付外題「関大本番外曲」。二十九丁分の料紙に紙焼写真を貼る。田中允識語「右立禪寺 梁塵 大原入/布留は関西大学図書館/蔵番外曲中未見曲のみを/集む。伊藤正義君の好/意による。原本は近世/後期写本にて大原入まで/は甲類、布留は乙類なり。/関大本については廃曲集/二十三に解説す/昭和三八年七月十六日/田中 允識」。

**【内容】** 現在、関西大学図書館に所蔵されている番外謡本二種から、五曲を抄出した資料。識語には「廃曲集二十三」とあるが、「未2」に原本解説がある。それによると、青表紙五番綴十七冊八十五曲の第一種、紺表紙五番綴二冊十番の第二種、樺表紙五番綴三冊十五番の第三種という、三種の謡本があり、いずれも江戸後期写の上掛け節付。識語にある「甲類」が第一種、「乙類」が第二種に対応するらしい。原本の調査報告を記す伊藤正義氏著簡あり。

**【曲名】** 立禪寺・梁塵・大原入・布留。

25 荘内謡曲  
**【形態】** 紙焼写真。  
**【書誌】** 包装紙を再利用した表紙(三〇・四×二三・一 cm)。左肩長形題簽あり。中央横長題簽に曲名墨書き。半葉に紙焼き写真(一五・〇×二一・〇 cm)二枚を貼付し、仮綴にしたもの。原本奥付なし。冊子以外に伊藤正義氏からの葉書、サイズの異なる紙焼写真(一一・一×一六・四 cm)が同封される。冊子

句を作り、鈴木喜春に句讀衣裳附/並小舞の節付を乞得て、五曲の間語となししぬされ/ど其道に入り其技をならひ得し事もなき予か作/文なれば、其式法に叶ハざる事も多かるべし、只識者の/笑艸とならん事を恥るにこそ。/嘉永三年戊申冬坂尾幽栖」が転写されている。

**【曲名】** 大地踏・十五里原・玉松・五所王子・羽黒山・中入間語。

#### 26 茶枕本番外謡曲

九冊

**【形態】** 複写。仮綴。  
**【書誌】** コピー機にてA4判に複写し、仮綴にしたもの。半葉十三行。原文奥付なし。

**【内容】** 以前は田中允蔵本であり、「未1」「伝本解題」では「家藏」とある。現在の所蔵先は不明。書名は、茶表紙枕本であることからの命名と推定される。上掛け節付で十番綴九冊。江戸末期の写本とされるもので、近い曲が多い。

**【曲名】** 1 鼓滝・烏帽子折・陀羅尼落葉・碁・菊士童・嚴島・淡路・伏見・江の嶋・丹後物狂。2 九穴・羊・藤・空蝉・吉野忠信・隱岐物狂・富士山・降魔・神在月・足引。3 絵馬・刀・雞竜田・松尾・水無瀬・泰山府君・春近・御裳濯川・絃上・須磨源氏。4 松浦物狂・諷訪・箱崎・守屋・末松山・持・丁固・千引石・大木・鱗形・現在七面。5 太施太子・武文・御室経政・愛宕空也・虎送・濱川・横山・恋松原・飛雲・松山。6 草雞・行家・高安・岡崎・大猩々・鶴

若・吉野天人・志賀忠度・露・篠祇王。7 大蛇・禪師曾我・  
胡蝶・恋重荷・調伏曾家・粉川寺・舞車・綾鼓・敷路物狂・  
葛城天狗。8 第六天・反魂香・鶴祭・一來法師・花盜人・泣  
不動・稻荷・犀・狹衣・枕慈童。9 芳野・濱均・信連・住吉  
詣・豊干・玉取・貴船・樺塚・求塚・婆相天。

## 27 浜本本番外謡曲(抄)

【形態】写真。横型中本。

【書誌】薄茶表紙(一三・九×一九・六cm)。表紙に直接曲名・冊順墨書き。番数不統一。原本奥付なし。田中允識語なし。帙入り。

【内容】京都浜本弥一郎氏蔵本で、福王系の写本とされる。深尾是空氏が観世宗家本により大正年間に書写したとされるが、観世宗家・観世文庫にはこの祖本が見当たらない。原本は五番綴二十七冊、百三十五番を収める。この写真は三十二曲分の抄本(「未2」「伝本解題の補遺(一)」参照)。

【曲名】1 兵庫捕・若紫・繼信・幽靈小町。2 鳥の跡・安井寺・兼好塚・兼好法師・平太郎。3 伊弉諾・三国伝来・吉助・紅葉賀・紫陽山。4 周防内侍・祇園沙汰・無刃・花見曾我・立禪寺・裸鬼。5 鐘重衡・書写寺・明石上・五郎・児塚・細谷川・臥塚。6 今生源太夫・良弁・花盗人・狐・鳴渡。

## 28 河村隆司氏蔵番外謡曲

【形態】複写。

【書誌】コピー機でB4判に複写、五番」とのコピーをそれぞれ仮綴。「佐陀」「式三番」はそれぞれホチキス留め。河村隆司氏郵送封筒入、書簡一通も同封。

## 六冊

【内容】河村隆司氏現所蔵の番外謡本。出雲周辺を題材としたものが多々、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】河村隆司(十番)の「藤」は、ほとんど宝生本に同じで少々の異同がある。(花盜人)は、はじめ「狂言」「ソレ」「地」等も無く、大分簡単に記述される。(現在七面)は、現今よりやや長い文句あり。(雪)は、観世流節付で珍しい。(卒都婆流)は別の二冊本(十番)の「藤」は、ほとんど宝生本に同じ。

【内容】たるものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 29 河村隆司旧蔵上掛り番外五番綴謡本

【形態】複写。仮綴。

【書誌】コピー機にてB4判に複写し、左端を白糸で綴じる。詞章部分のみの複写。

【内容】現在、能楽研究所河村隆司文庫に所蔵されている書写年不明観世流五番綴謡本(a8)のうち、番外曲ばかりを集めた五冊の複写。(蛭子)組のみ四番綴本、全二十四曲所収。

【書誌】三十号掲載「河村隆司文庫蔵書目録」参照。

【曲名】1 蛭子・笈搜・恋妻・養庭。2 豊原寺・軍武王・明石上・住吉物狂・恵美酒祭。3 三之舟・平太・吹上・幽靈曾我。

## 四部

## 五部

【内容】河村隆司氏現所蔵の番外謡本。出雲周辺を題材としたものが多々、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 六冊

【内容】たるものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 七部

【内容】たものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 八部

【内容】たものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 九部

【内容】たものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 十部

【内容】たものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 十一部

【内容】たものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 十二部

【内容】たものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 十三部

【内容】たものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 十四部

【内容】たものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

## 十五部

【内容】たものが多く、出雲周辺の方言をそのまま使用するなど特異な点もみられる。奥付に「長谷川常興」と読める署名あり。

【書誌】住吉・三韓・八重垣・日本武・磐戸・藤・花盜人・現在七面・雪・卒都婆流。佐陀。式三番。

原本奥付には「大正参年壹月二十五日從／大正四年貳月拾七日迄發行届済」とあり。コピーは大正五年三月の三版。増補訂正相続者に「大阪府西成郡中津町大字下三番七十六番屋敷」大喜多信秀とあり。発行所「常磐會」とある。田中允識語「右大喜多本觀世流版本(実は大阪大西家使用の版本)」[坂出] 中川三郎／氏よりコッピー寄贈を受く／昭和六年二月十四日／田中允識(最終ページにペン書)。中川三郎氏からの手紙一通、「中川氏に寄贈せられし某氏よりの書状」二通(コピー)を同封してある。茶封筒入。

【内容】大正三年刊行大喜多本は、関西の大西家藏本の流れを汲む觀世流謡本で、「大西」の家名を憚り「大喜多」と称しているという。節付に特徴がみられるらしい(同封手紙による)。

【曲名】実盛・楊貴妃。

### 33 雲之巻

【形態】透写本。半紙本。

### 一冊

【書誌】栗皮色表紙(二二・六×一五・七cm)。中央長形題簽に「雲之巻」と墨書。内題「雲之巻」。本文料紙は薄葉紙。半葉七行。墨付八十一丁。柱に曲名と曲との丁付を墨書。田中允識書「右江島伊兵衛氏藏版本ヲ以テ透写了」/昭和十八年九月十三日/田中允識。帙入。帙題簽に「新作謡曲集/雲之巻/昭和十年山階舞謡会刊」と墨書。

【内容】昭和十四年に刊行(舞謡会代表 石川智世刊)された

山階修新作・改作の謡物集。觀世流節付。「鴻上」三二一A-9参照。

【曲名】明治神宮・高臺・元の使者・土僧・同和光・深山かづら・五月雨・竹取翁・積新・蟬丸・海の幸・玉の井。

### 34 竹中実新作能

#### 三十一部

【形態】複写。箱入。

【書誌】コピー機にてA3判に複写。各冊ごとに右上をホッチキスで綴じる。田中允實竹内宏氏・西野春雄氏書簡入り。〈河童〉のみ袋綴半紙本(原本)の形に整える。段ボール箱入り。

【内容】竹内実氏の新作能・新作謡の複写。原本は竹内氏自身がガリ版印刷で製作した私家版(発行所は伏見友楽会とするものも含む)で、全冊概説・装束付を記した前付もある。

一九三三年八月／一九六三年九月の間に制作される。竹内氏は製薬会社や病院などに勤務していた薬剤師で、觀世流手塚亮太郎氏に師事し、能愛好者の会「伏見友楽会」の中心人物として活動していた。この会の催しで、竹中氏作「法隆寺」(桐壺)なども演じられている。本資料は「未刊謡曲集」統編の編集にあたり、子息・宏氏から提供されたものらしい。

【曲名】1謡曲日本史上編(日本武尊・神功皇后・藤原鎌足・菅原道真・兄島高徳・楠正行・上杉謙信・織田信長・豊臣秀吉・片桐且元)。2謡曲日本史下編(天石良雄・松平定信・近以外は完曲の一編綴本)。

【書名】1謡曲日本史上編(日本武尊・神功皇后・藤原鎌足・菅原道真・兄島高徳・楠正行・上杉謙信・織田信長・豊臣秀吉・片桐且元)。2謡曲日本史下編(天石良雄・松平定信・近吉・片桐且元)。

【内容】昭和十四年に刊行(舞謡会代表 石川智世刊)された

括。宗片氏は静岡大学名誉教授で、能シェイクスピア研究会を主催。内容は以下の通り。

①「英語能・ハムレット」(宗片邦義氏著、研究社出版、一九九一年)

②「能シェイクスピア研究会公演パンフレット類(能・オセロ)」パンフレット三部、「能・マクベス」パンフレット一部、「能・ハムレット」名セリフ集一部、「能・ハムレット」せりふ抜粹集一部、「能・ハムレット」名せりふ集一九八三年版一部)

③「能・ハムレット」演出資料

④田中允實宗片氏書簡 五通

### 35 譜曲文庫別巻第一 光悦謡本上輯

### 一冊

【書誌】譜曲文庫刊行会、一九三八年刊。洋装本。光悦謡本上製本の影印本。高砂・八島・軒端梅・松風・佛原・檜垣・杜若・夕顔・三井寺・龍田・東岸居士・邯鄲・盛久・当麻・殺生石・阿漕・唐船所収。

### 36 稲垣富夫氏新作能資料

### 一箱

上代文学研究者で新作能も手がけた稻垣富夫氏(元愛知淑徳大学教授)関連の資料。著書「萬葉能――研究と創作」(一九八〇年、中部日本教育文化会)、雑誌「美夫君志」(八・一〇・一一号)抜刷一冊、田中允實書簡三通を含む。

【内容】田中允は本書を取めるボール紙箱に「喜多流無刊記

版本五番綴」と記すが、擬車屋本系統が正しい。本書は鴻山文庫藏本(八・三)と比べると五ミリほど版高が低く、印刷も粗雑である。また文字遣いは同一であるが、字の彫り方が多少

### 十九冊

### 37 シェイクスピア能関係資料

### 一袋

宗片(上田)邦義氏作のシェイクスピア関連新作能の資料の一

### 38 喜多流無刊記五番綴

### 一本

【書誌】波模様空押紺表紙(二二・三×一六・三cm)。中央横長題簽に所収曲名と冊順を刻す。内題は所収曲の曲名。半葉七行。刊記なし。咽に曲名・冊順を刻す。所収曲名の頭文字の小口書あり。直シあり。

【内容】田中允は本書を取めるボール紙箱に「喜多流無刊記

異なる。擬車屋本は被影を繰り返した覆刻本が数種あるが、本書は江戸中期ごろに複刻もしくは模刻されたものであろう。

『鴻上』下掛り版本番組表・内組Iの内、高砂組を欠く。

【曲名】2 自然居士・花月・小塩・西行桜・錦木。3 葵上・

黒塚・山婆・紅葉狩・道成寺。4 八幡・清経・忠度・兼平・

簾。5 現在鶴・鶴・舍利・野守・土蜘蛛。6 邦鄧・鉢木・天

鼓・女郎花・融。7 皇帝・是界・大会・鶴飼・殺生石。8 白

染天・竹生鳴・白鬚・源太夫・養老。9 浮舟・玉葛・卒都婆

小町・閑寺小町・通小町。10 田村・朝長・通盛・実盛・敦盛。

11 江口・定家・野々宮・楊貴妃・源氏供養。12 湯谷・松風・

二人静・富士太鼓・誓願寺。13 百萬・柏崎・三井寺・角田

川・籠太鼓。14 賀茂・老松・弓八幡・嵐山・金札。15 芭蕉・

東北・井筒・采女・千手。16 杜若・羽衣・三輪・龍田・猩々。

17 盛久・藤永・春水・芦刈・安宅。18 海士・当麻・藤渡・阿

漕・舟弁慶。19 春日龍神・国栖・蟻通・檀風・谷行。20 鐘

馗・烏頭・船橋・項羽・熊坂。

### 39 延宝九年高橋清兵衛刊観世流五番綴謡本

一冊

【形態】刊本。中型横本。

【書誌】紺表紙(一九・〇×一三・四cm)。横長刷題簽に所収曲曲名を刻す。内題なし。本文料紙は楮紙。半葉六行。版心に曲名と各曲の丁数を刻す。墨付六十二丁。刊記「此本者観世左近太夫/以章句寫之并加當流/秘密悉令改正者也/于時延寶九辛酉仲春吉辰/高橋清兵衛新刊(鼎印)」。

### 40 刊年刊者不明下掛け謡本

一冊

【形態】刊本。中型横本。

【書誌】表紙なし。一三・〇×一九・二cm。本来遊紙であつたと思われる料紙に曲名と「下掛け本」「年次不明(見セ消チ)」家藏板元不明ノ貞享四年外百番/「ノ複刻カ(見セ消チ)」ト同版」とを墨書き。墨付百三丁。版心に「俊三」のように曲名と冊順、丁付を刻す。奥付なし。二十一曲所収。

【内容】元禄十六年霜月荒川刊二十番綴外組本(五冊)。外組ハの百番揃。鴻山文庫八34)と貞享四年山本刊二十番綴外組本(年記は貞享四年だが、実際の刊行年は荒川刊本より遅れる。鴻山文庫八21)と同版。後人が二十一番に合綴した本。本書は版面から判断して、先印である荒川刊本をもとにしている。

### 41 宝永八年戸蔵屋刊下掛け五番綴外組本

五冊

【形態】刊本。半紙本。

【書誌】紺表紙(一一・七×一六・二cm)。横長刷題簽に曲名

### 42 宝山寺藏金春流謡本

四十六冊

【形態】写真。仮縫枠形本。

【書誌】薄茶表紙(一一〇・一×一八・九cm)。表紙に直接、曲名・冊順墨書き。田中允識語なし。

【内容】現在能楽研究所般若窟文庫に所蔵されている金春流鳳自筆本を中心とした室町末期書写本の写真。般若窟文庫は、幕末から金春流と縁のある奈良県生駒所在の真言律宗總

### 43 嶺島神社蔵金春流古写本

三冊

【形態】紙焼写真。洋装綴中型横本。

【書誌】薄茶色表紙(一四・七×二一・四cm)。外題なし。一頁目に原本表紙写真あり。全一三五曲。

【内容】三番綴本(二番綴本が五冊、五番綴本が一冊交じる)。

室町末期に書写されたと目される嶺島神社所蔵下掛け謡本。現在では原本の閲覧が困難なため、紙焼でも貴重。能楽研究所にも紙焼写真は保管されているが、本書の方が錯簡・脱落がなく、状態がよい。原本には「金春八郎書本にて写也/此内千寿太夫七郎節写也」(源氏供養)冊、「右金春之本写也」(春日龍神)冊などと記され、金春系謡本の転写本と推測されるが、全冊に奥付があるわけではなく素性は判然としない。

【内容】延宝三年高橋刊本の再版本。鴻山文庫五185に十五冊組あり(本来は二十冊揃)。「鴻上」の内組Aの種類に属する。本冊はその志賀組。

【曲名】志賀・小原御幸・せき寺小町・天鼓・誓願寺。

金剛系の詞章に似る曲もある。

#### 44 吉川家旧藏車屋謡本

二十一冊

**【曲名】** 1 景清・花形見・羅生門。2 源氏供養・半部・千寿。3 春日龍神・吉野參詣・雨月。4 雲雀山・小狐・吉野詣。5 杜若・富士太鼓・しやうく。6 墓田川・放下僧・松虫。7 おはすて・太刀ほり・舟はし。8 通盛・恒正・朝長。9 竹生嶋・丹後物狂・項羽。10 あま・うつせみ・ひかき。11 舟弁慶・愛寿・山祖母。12 白楽天・鶴飼・調伏曾我。13 和刈川・三返・落葉。14 佛原・養老・谷行。15 しやうきせしゆ・籠太鼓・松の山かみ。16 大佛供養・鳥追舟・右近馬場。17 くまさか・橋弁慶・大会。18 一角仙人・竹雪・あたち。19 鶴祭・大社・暖風。20 天鼓・紅葉狩・自然居士。21 弓八幡・源三位頼政・かしわさき。22 玉葛・野々宮・湯屋。23 あい染川・野もり・桜川。24 御裳濯・蜘蛛・鉢木。25 当麻・葛城・芭蕉。26 呉羽・鶴羽・金札。27 氷室・生田・志賀。28 むつら・簾・満仲。29 橋姫・二人祇王・梅かえ。30 絵馬・大江山・鞍馬天狗。31 七騎落・六代・清恒。32 穂都婆小町・閔寺小町・通小町。33 室君・立田・源太夫。34 春榮・兼平・知章。35 舍利・歌占・せうき。36 西行桜・蟻通。37 現在鶴(一部)・横山。38 善知鳥・郡鄧・半蔀。39 当摩寺・櫻・善知鳥。40 八島・せかい。41 盛久・佐保山。42 長良・鶴・藤永。43 賀茂・国柄・谷行。44 三井寺・百万・浮舟。45 東方朔・俊寛。46 野干・放生川・小塩・老松・融。

**【内容】** 原本は能楽研究所蔵で重要文化財、通称「吉川小本」。中本は五番綴十六冊、六番綴三冊。中横本は六番綴一冊、八番綴一冊。鳥養道晰手沢本で、彼の初名「与十郎」や「宗晰」(一道晰)の署名や角印といった奥付まで書写されている。

原本にある詞章訂正は書写されていない場合が多いが、一部貼り紙をして写した箇所がある。また原本の特色である「車屋本系直シ」も書写されていない。原本には奥書きがあるが、詳細は表草氏「車屋謡本新考(三)」「能楽研究」十四号、一九八八年参考。

**【曲名】** 1 花や倉・千引・愛宕空也・隠岐物狂・恋重荷。2 右近・夜討曾我・禪師曾我・土車・大會。3 枕土童・酒天童子・生贊・鶴若・岡崎・先帝。4 韋駄天・内府・狹衣・松浦鏡・舞車。5 三山・かるかや・野干・白鬚・頬政。6 まんちう・放家僧・吉野・雨月・国柄。7 日闇景清・花かたみ・はしへ姫・七夕・黒塚。8 融・春榮・よし野・鉢木・はつ雪。9 鶴龍田・たつた・輪廻・あさかほ・俊寛・巖猩々。10 常正・鶴・井つ・山うは・龍田・三井寺。15 相生・田むら・湯呑・春日龍神・自然居士。16 老松・屋鳴・野宮・すみた川・玉かつら。17 皇帝・頬政・千壽・哥うら・こかう。18 芳野・盛久・六浦・女郎花・竹生嶋。19 佐保山・あしかり・をほ・羽衣・紅葉狩。20 岩舟・唐船・殺生石・鞍馬天狗・朝かほ。

野もり・大やしろ・阿漕・養老。11 黒川・貴船・菅丞相・小林・恋松原・双紙洗。12 千壽・よしの静・鳥頭・こかう・蟻通。13 三井寺・まつむし・玉かづら・錦木・葵上。14 佐保山・やしま・昭君・籠太鼓・花月。15 をしほ・誓願寺・西行桜・羽衣・山姥・佛の原・谷行。16 増風・弓八幡・張良・すみた川・石橋・よし野詣・国柄・あらし山。17 露・求塚・かしづ崎・通小町・橋弁慶。18 穂都婆小町・閔寺小町・鶴かひ・春日龍神・老松。19 飛雲・木曾・籠祇王・碁・正尊・玉井。20 和布刈・胡蝶・藤永・粉川・雲雀山・絵馬・濱川・ねざめ。21 七騎落・六代・清恒。22 穂都婆小町・閔寺小町・通小町。23 室君・立田・源太夫。24 春榮・兼平・知章。25 舍利・歌占・せうき。26 西行桜・蟻通。27 現在鶴(一部)・横山。28 善知鳥・郡鄧・半蔀。29 当摩寺・櫻・善知鳥。30 八島・せかい。31 佐保山・長良・鶴・藤永。32 賀茂・国柄・谷行。33 三井寺・百万・浮舟。34 東方朔・俊寛。35 野干・放生川・小塩・老松・融。

二十冊

#### 45 毛利家旧藏車屋謡本

二十冊

**【形態】** 透写本。半紙本。

**【書誌】** 源氏車模様入白表紙(二五・七×一八・八cm)。中央長形題簽に曲名を墨書き。各冊一丁目に目録あり。本文料紙は薄様紙。全丁間紙あり。各冊末に「毛利家文庫旧藏車屋本二十冊之中」とあり。

【内容】

現在、鴻山文庫に所蔵されている毛利家旧藏車屋謡本。本全冊の透写本。原本は、五番綴二十冊、合計百曲。全冊に「沙弥道晰(花押)」と署名があり、十八冊には文禄二年(一五九三)六月から慶長二年(一五九七)八月にかけての年記と田井十左衛門に宛てた奥書きがある。詳細は「鴻上」二二七及び、表草氏「車屋謡本新考(四)」「能楽研究」一七号、一九九三年)参照。

#### 46 整版車屋謡本

五冊

**【形態】** 透写本。半紙本。

**【書誌】** 渡刷毛目模様入鳥の子色表紙(二四・三×一八・七cm程度)。左肩長形題簽に曲名を墨書き(③のみ横長題簽)。本文料紙は薄手の楮紙。半葉七行。原本の版心にある曲名も墨書き。田中允奥書「右以江島伊兵衛氏藏車屋整版本透写ノ昭和二十一年九月二十九日/田中允」(③分)。他種も各冊に日付

が異なる同識語あり)。

**[内容]**現在、鴻山文庫に所蔵されている整版車屋本三種の透写本。以下、「鴻上」の名称・分類に従つて各種ごとに説明する。

①茶色表紙一番綴本(鴻山文庫八1イ)の透写本

八島・三輪。題簽は「48の水色表紙を用いる。原本は初版

に近い本。

②紺表紙一番綴本の透写本(鴻山文庫八1ロ)

一冊

通小町。題簽は①と同じ。原本は原装本で初版に近い。

③袋綴五番綴本の透写本(鴻山文庫八1ハ)

一冊

海士・道成寺・弓八幡・小督・芭蕉。表紙は①と同じ。題

簽は表紙と同じ料紙を用いる。原本は後人の合綴本。

簽は表紙と同じ料紙を用いる。原本は後人の合綴本。

47 車屋吉川整版本(抄)

三十五冊

**[形態]**透写本。包背装半紙本。

**[書誌]**菊唐草模様薄茶色表紙(二五・二×一八・二四)。中央に長形題簽。本文料紙は薄葉紙。半葉七行。田中允奥書「右三十五冊譜本は吉川子爵家舊藏現江島伊兵・衛氏藏の車屋整版本の透寫本なり。右の中江／島氏藏車屋整版本と重複する曲は兩者同版なる／を以つて、省略したものもある。／昭和二十四年九月十七日／田中允誌」(金札・八島)冊)。「放生川」冊のみ三番綴、他は全て一番綴。

**[内容]**吉川家旧藏の整版本で、現在は鴻山文庫所蔵となっている車屋本系譜本。一番綴三十四冊、三番綴一冊の合計七

48 古活字車屋本

十九冊

**[形態]**透写本。包背装半紙本。

**[書誌]**色散らし水色表紙(二四・三×一八・七cm程度)。藍色表紙が七冊あり)。一46の表紙を用いた左肩長形題簽に曲名を墨書(一部薄茶色の料紙を用いる)。本文料紙は薄手の楮紙。半葉七行。原本の版心にある曲名も墨書。田中允奥書「右以江島伊兵衛氏藏車屋整版本透写了／昭和二十一年十月十二日／田中允」(八島分)。各冊に日付が異なる同奥書あり)。

**[内容]**現在、鴻山文庫に所蔵されている古活字車屋本二種(八2)の透写本。原本には「遊行柳」が含まれるが、本資料ではなく、替わりに「葛城」が含まれる。この「葛城」が何の資料

十一曲を收める。「鴻」「鴻上」八1<sub>ホ</sub>参照。。

**[曲名]**1軒端梅・定家。2三輪・鶴鳩羽。3春日龍神・当麻。4老松・養老。5山婆・西行桜。6融・関寺小町。7黒塚・田村。8鶴飼・昭君。9藤渡・鶴。10小塩・娘捨。11誓願寺・天鼓。12二人静・湯屋。13楊貴妃・卒都婆小町。14籠太鼓・吳服。15浮舟・江口。16白楽天・矢卓鴨。17杜若・自然居士。18兼平・千手。19羽衣・葛城。20放生河・烏頭・葵上。21相生・邯鄲(狂言の女いたたり)。22百萬・源氏供養。23松風村雨・柏崎。24玉鬘・三井寺。25金札・八嶋。26龍田・海人。27小督・蟻通。28通盛・朝長。29井筒・野宮。30芭蕉・采女。31通小町・夕顔。32真盛・忠度。33女郎花・道成寺。34船橋・錦木。35難波梅・弓八幡。

の透写であるかは不明。かつて鴻山文庫に「葛城」の古活字本も所蔵されていた可能性もある。

**[曲名]**杜若・景清・野宮・三輪・盛久・安宅・井筒・金

札・八島・夕顔・鶴鳩小町・皇帝・桧垣・葛城・鉄輪・昭

君・経止・難波梅・行家。

49 万治元年臘月刊仕舞付百番

二十冊

蟻通・田村・羽衣・鶴飼・角田川。11白鬚・敦盛・百万・紅葉狩・女郎花。12嵐山・苦刈・浮船・土蜘蛛・花月。13放生河・安宅・誓願寺・邯鄲・舍利。14養老・檀風・楊貴妃・海士・谷行。15吳服・国柄・芭蕉・黒塚・当麻。16源太夫・鉢木・湯屋・道成寺・通小町。17岩船・盛久・閑寺小町・野守・熊坂。18竹生嶋・現在鶴・源氏供養・頃羽・藤永。19山婆・朝長・杜若・春日龍神・舟弁慶。20金札・藤渡・松風・善界・殺生石。

50 毛利家旧藏番外譜本(抄)

一冊

**[形態]**透写本。包背装横型中本。

**[書誌]**布目地薄茶色表紙(一四・〇×二三・〇cm)。横長題簽。本文料紙は薄葉紙。半葉九行。原文奥付なし。田中允奥書「右は毛利公爵貞享元禄頃／写シト推定サレル節附ナキ番外譜／本百五十番の中ヨリ他ニナキ曲及／ビ他ニアリテモ本文ヤ・異ル曲ヲ抄／写セシナリ／昭和十八年九月三十日／田中允識」。十二番綴。

**[内容]**毛利旧公爵家藏の番外譜本。無章句で江戸前期写本とされる。枕本。原本は二十番綴八冊(うち一冊は十番綴)。近い曲が多いとされる(未1)「伝本解題」参照)。

**[曲名]**1高砂・忠度・東北・三井寺・猩々。2鶴羽・清経・千手・鍾馗・融。3老松・兼平・井筒・大会・錦木。4弓八幡・猿・野宮・烏頭・天鼓。5三輪・卒都婆小町・江口・葵上・西行桜。6白楽天・八嶋・龍田・鶴・柏崎。7皇帝・通盛・采女・阿漕・笠太鼓。8小塩・真盛・玉葛・春栄・富士太鼓。9賀茂・二人静・定家・船橋・自然居士。10

51 川瀬本番外譜曲

五冊

【形態】透写本。横長小本。

【書誌】布目地茶色表紙(一一・〇×一五・九cm)。長形題簽に曲名。本文料紙は薄葉紙。半葉九行。原本奥付なし。田中允奥書「右川瀬一馬氏蔵本ヲ以テ透写了。原本ハ紺表紙ニシテ近世中期又ハソレ以前ノ筆者ト認定サル」昭和十七年十二月三十一日二十三時「田中允識」。薄緑色角裂あり。帙入り。

【内容】川瀬一馬氏旧蔵本。五番綴の謡本で下掛り節付、近世前期の写本とされる。五番綴五冊、二十五番を収める(未世前期の写本とされる。五番綴五冊、二十五番を収める(未

2)「伝本解題の補遺(一)」)。

【曲名】1 聖德西王母・櫻墳・東国下り・西国下り・志賀忠則。2 金剛山・康頼・鰐海・夢想松風・野口判官。3 義經・花見曾我・山本小町・菊水士童・千引。4 一来法師・雪・馬乞佐々木・現在経政・実検実盛。5 恋松原・鷺・碁・鞆・鞠。

## 52 新謡曲百番

【形態】透写本。包背装中本。

【書誌】刷毛目模様薄茶色表紙(一〇・四×一四・四cm)。題簽なし。表紙に直接曲名・冊順墨書。五番綴。本文料紙は薄葉紙。半葉六行。原本奥付なし。田中允奥書「佐々木信綱氏

旧蔵 天理図書館現蔵/新謡曲百番を以て透写した/原本は一番綴なり/昭和二十年 田中允識。角裂なし。帙入り。

【内容】田中允奥書にあるように、佐々木信綱博士旧蔵の謡本で、現在は天理図書館に所蔵されている。原本は、一番綴

## 二十冊

百冊百番で、明治四十五年に博文館から「新謡曲百番」として翻刻、発行されたもの。「未17」「田中下掛本解題」のなかに言及がある。また田中允論文「新謡曲百番の諸問題」(『中世文学の世界』岩波書店、一九六五年)があり、この新謡曲百番は室町文化追求や近い時代の題材を重視するところにその特徴があるとされる(田中文庫にはこの自筆原稿も収める)。しかし成立年代には慎重な考察が必要か。また、田中允「吉川本番外謡曲」(『国語と国文学』一九四三年六月号)四十二頁にも、この本についての言及がある。

【曲名】1 鶯宿梅・阿黒王・足引・天橋立・有子内侍。2 幽靈桶・生田忠度・石山義衡・磯崎・和泉式部。3 薄雪・歌屏風・宇治物狂・空隱・右衛門桜。4 追懸時宗・大磯・大原詣・大森彦七・思出川。5 御駒乘・柏木・勝頼・哥舞伎・鎌倉山。6 鎌田・狩場重光・甘樂太夫・菊・北野。7 木引善光寺・許由・久能・黒池龍神・花鳥風月。8 現在簾・現在実盛・現在道成寺・現在千方百・戀妻。9 駒幸・材木義衡・嵯峨女郎花・小夜碁・小夜衣。10 更科祐近・早蕨・信田・十四経・鳴鶴。11 清水冠者・祐氏・鈴虫・瀬良田・大内裏。12 大塔宮・焼火山・田鶴・多聞寺・月見。13 江藻斐・露の宮・定家櫻・長柄・難波猩々。14 仁慶・沼搜・箱崎物狂・初瀬西行・花自然居士。15 花丸・花小汐・日高川・人穴・笛物狂。16 福井瀧口・舟戻・変化退治・法事静・松竹。17 松の雪・湊川・三輪童子・妙顯寺・髪判官。18 盛近・文覺瀧籠・柳津・款冬・雪鬼。19 義興・義經・鑓・乱舞猩々・龍宮猩々。20 龍

神七夕・龍神橋立・輪官・留春・田舎夕顔。

## 六冊

### 53 今井本番外謡曲

【形態】透写本。変形半紙本。

【書誌】草花模様入鳥の子色表紙(二六・三×一八・八cm)。左肩長形題簽に曲名を墨書き。内題は各冊曲名(藤浪・師盛の冊はない)。本文料紙は薄様紙。全丁間紙あり。田中允奥書「右 今井卓爾氏藏近世初期藍表紙/鳥ノ子 両面書き寫本を透写す/六冊の中の一冊なり 各冊別筆也」昭和廿六年十一月廿五日/田中 允識」(田鶴の冊)が全冊にあり。

【内容】今井卓爾氏(早稲田大学教授・跡見女学園大学教授)旧蔵謡本の透写本。現在の所蔵先は不明。すべて下掛り節付であるが、役名表記は片仮名になっている(明石のみ平仮名)。

【曲名】田鶴・藤浪・明石・師盛・現在忠度・後基。

## 九袋

### 54 能楽研究所蔵上杉本抄

【形態】紙焼写真。

【書誌】写真サイズ(八・二×一・一cm)。九袋。

【内容】上杉本は、旧米沢藩主上杉家伝来の本で、現在は法政大学能楽研究所の所蔵である。上杉本全体では一〇四冊五二〇番を収め、番外曲集成として極めて有益な資料とされる。これはそのなかでも珍曲・稀曲を抄出し、紙焼写真に収めたもの。

【曲名】1 反魂香・兼本・別所長治・鼓瀧・鷺。2 大木・飛鳥河・堀難井・岩山・現在忠度。3 治親・浦上・秩父・初雪・盲沙汰。4 記念送・秀頼・合浦・齊藤五・範頼。5 康頼・脉論・熊手判官・水上・郭巨・野草論。6 磐・墨染桜・信夫・二月堂・熊野詣・松浦物狂。7 火鉢・和田酒盛・教經・秀次・大施太子。8 春日神子・雪頼朝・千人切・煙巖山・鞆。9 末松山・齊藤丸・甘糟・和泉小次郎・幽靈酒顛童子。

## 八冊

### 55 金春流番外曲交り近世中期写謡本(抄)

【形態】紙焼写真。仮綴。

【書誌】(八・二×二五・七cm)。全冊、内題紙焼写真からはじまる。表紙なし。識語なし。

【内容】原本は能楽研究所蔵(下掛け横本番外謡本「六徳本系金春流謡本」)で、十番綴が十六冊、六番綴が一冊、五番綴が十四冊、曲舞集が二冊で、合計二三六曲所収。本書はそのうち、番外曲を中心とした十番綴が三冊分、五番綴が五冊分の紙焼写真。江戸中期に書写された下掛け謡本で、天和元年霜月本・貞享三年霜月本(通称「六徳本」)にもつとも近い。「能研」参照。

【曲名】富士山・墨染桜・濡衣・鞆・岡崎・実検実盛・恋松原・飛鳥寺・磯屋・関原与一(10曲)。麿羽・三帰・大蛇・草薙・碁・松浦物狂・綾鼓・三山・皇帝・大般若(10曲)。御裳濯・志賀・金札・嵐山・鉢木・松山・車僧・橋弁慶(8曲)。

源太夫・俊成忠則・隅田川・愛寿・行家(5曲)。右近・巴・竹雪・呂后・生贊(5曲)。佐保山・花軍・求墳・三笑・正儀・世守(5曲)。大社・知章・法花會・高野物狂・飛雲(5曲)。・住吉詣・笠卒都婆・露・賀茂物狂・谷行(5曲)。

## 56 吉川本番外曲

### 四十五冊

【形態】透写本。中本。

【書誌】栗皮色表紙(一九・六×一三・三cm)。中央横長題簽に曲名墨書。本文料紙は薄葉紙。半葉六行。冊順墨書。田中允奥書「右番外謡曲四十五冊二百二十五番ハ吉川ノ子爵家藏本ヲ青寫真ニ撮影シ更ニ再透写セシモノナリ」原本ハ新譜曲百番ノ二酷似シソノ詳細ハ國語と國文学昭和十八年六月号二発表セリ。本ノ序列ハ原本ニナシ私ニ附スコノ本ノ筆者ハ田中まさ子ノ也。昭和十八年八月一日 田中允識」とあり。四十五冊を四帙に分けて收める。

【内容】旧岩国藩主、吉川子爵家に伝えられたもので五番綴四十五冊、二百二十五曲を收める。下掛り節付で江戸中期、元禄期ごろの写本と推定されている。吉川本は下掛け番外謡曲集成といえるもので、新謡曲百番・佐野本・大聖寺本・彰考館本などと同系、新謡曲百番とは同書体である。奥書にあるよう「國語と國文學」一九四三年六月号に論文「吉川本番外謡曲」がある。「未1」「未18」解題参照。

【曲名】  
1 鹿嶋・高館弁慶・明静・硯破・追善楠。2 松尾山・影山・仏桜・御騎乗・嵯峨女郎花。3 加茂恵心・現在千物狂・飛鳥川。  
  
竹・生田忠度・雪鬼・聚楽・廻向院。36 三輪童子・御坊曾我・常盤問答・歌屏風・茶教。37 藤・休ミ天神・相羽・柳瀬・番豆崎猩々。38 大内裏・柴田・早蕨・依智・郭公。39 小学・真都・大磯・花月宴・鑑量子。40 竜口寺・安禄山・定家桜・勾当内侍・須磨山路。41 三井水・阿黒王・瑠璃君・花小汐・多聞寺。42 雨乞・築鷲・文覚滝籠・秀郷・文覚勧進。43 嶋渡・記念巴・富士見小町・吉備大臣・農竜。44 堯舜・瀬良田・靈昭女・再現山姥・須磨寺。45 北野・許由・橋姫・北野物狂・飛鳥川。

### 九冊

## 57 米沢上杉家藏本 第一種

【形態】紙焼写真。大本。

【書誌】薄茶色共表紙(三〇・三×二二・五cm)。表紙に所取曲と「米沢上杉本 第一種(冊順)」を墨書。半葉に二枚の紙焼写真を貼る。八十四曲所収。識語なし。

【内容】米沢上杉家旧蔵で現在米沢市立図書館蔵の金剛流謡本。上杉重定(延享三年～寛政十年。享年七十九歳)の手沢本と伝えられているが、原本に署名や年記はない。ほとんどこの曲の冒頭に詳細な装束付が付してあり、行間や上下余白には型などの注記が加筆されている。中には末尾に舞台図などを書き、詳細に演出事項が加えられている。番外曲の演出資料として大変有益である。また、明治以前の金剛流の詞章を伝えている点も貴重である。

【曲名】1 富士山・韋駄天・鱗形・駒形猩々・巖鳩・綾鼓・

### 二十冊

## 58 米沢上杉家本 第二種

【形態】紙焼写真。大本。

【書誌】薄茶色共表紙(三〇・三×二二・五cm)表紙に所取曲と「米沢上杉本 第二種(冊順)」を墨書。半葉に二枚の紙焼写真を貼る。一二三曲所収。

【内容】米沢上杉家旧蔵で現在米沢市立図書館蔵の金剛流謡本。原本に奥書なし。書き入れなどはほとんどなし。江戸後期頃の書写だと目される。

【曲名】1 江嶋・浦嶋・巴園・神有月・玉津嶋龍神・龍頭・橋立龍神・御裳濯・龍虎・大瓶猩々・七人猩々。4 惟盛・清

方・江藻髮・笛物狂・竜神七夕。4 柳津・範頼・末松山・常縁・怪山寺。5 和哥吹上・朱雀門・恋妻・更科祐近・竜神嚴嶋。6 古尉・親衡・安達靜・箱崎物狂・獅子王。7 梶巖山・現在実盛・田舎夕顔・月見・仁慶。8 兼好法師・現在忠度・梶折砧・牡丹・秋父。9 絵馬・対面曾我・鶯・都藍仙・宇治橋。10 白魚・三笑・国阿上人・住吉物狂・雪猩々。11 丁固・直江・軒・鬚切・堀兼井。12 調訪性空・康頼・魑浮舟・人穴・類仙香。13 玉取・花丸・玉鉢・野寺・乱舞猩々。14 猩々・吉野三位・法事静・駒率・祐氏。15 豊國・秀次・昔男・那須狐・比叡山。16 姥ヶ火・安齋・蓮・富士天狗・徳山。17 三笠山・斎藤丸・忍摺・逢坂物狂・初瀬詔。18 田鶴・門破・鶯・乙平・大塔宮。19 妙顯寺・金尾・切兼曾我・因幡猩々・黒池竜神。20 将門・内海金王・錦・大原詔・狂獅子。21 龍宮猩々・辛崎・右衛門桜・再現道成寺・追懸時宗。22 橋竜神・狩場重光・現在松風・変化退治・御田植。23 一言主・小野篁・鶯宿梅・初瀬西行・法隆寺。24 久能・吉備津宮・柏木・沼搜・山崎猩々。25 天橋立・生捕盛久・和泉式部・鬼界嶋・鎌足。26 春日御子・竜神橋立・足引・長治・閑原。27 燃火山・秋仲・哥舞妓・原婦・長柄。28 三嶋・藤崎・玉水・火鉢・如來善光。29 文僧都・雪頬朝・友鳥・現在張良・現在善知鳥。30 塩干・姫路・武藏野・磯松・長柄橋。31 劍珠・熊・柳・西行西住・陽嘉。32 吉野桜・吉野判官・花咲・福井滝口・笠置山。33 葉性論・義経・梅乙女・現在道成寺・霞ヶ関。34 五節・笛之巻・阿仏・松浦物狂・鞍馬。35 松

時田村・高野敦盛・野口判官・笠置山・吉野忠信。5村山・正行・熊・鱗形・犀・鬼黒・駒形猩々。6現在忠則・鞭文學・一來法師・木曾願書・安犬・追懸鈴木。7多湖藤・陀羅尼落葉・胡蝶・高安・松浦梅・墨染桜。8星・枕慈童・呂后・羊・伍子香・郭巨・涿漢。9伏木曾我・切兼曾我・鞍馬源氏・花車・信連・信貴山。10空蟬・飛鳥川・京落葉・碁・巖島・雪。11吉野優婆塞・松尾山・聖德西王母・大施太子・八幡・常陸帶。12啼不動・大般若・第六天・韋馱天・綾鼓・葛城天狗。13輪藏・豊干・吹上・鳶岩屋・身延・七面。14岡崎・正尊・愛染川・千引・高野物狂・文学六代。15松山・愛宕空也・五筆・三山・大木・鐘引。16降魔・孫子邈・馬融・現在七面・榕天狗・菊士童。17松尾・生贊・鶴岡・箱崎・鼓滌・合浦。18水無瀬・護法・萼・白主・魔無原・蓮生。19小姫・雪鬼・刀・虎送・治親。

環・武文・敷地物狂・御崎・御室経政・守屋。20承久・橋姫・雪鬼・刀・虎送・治親。

は第一種本の写真で、初めに各冊一丁目にある目録を全掲し、一部の曲の装束付けや演出注記も中心にまとめとめる。その後は第二種本を抄出したもので、一冊目に二種本が収まる箱の写真がある。

**【曲名】** 1現在忠則(一部)・芳野優婆塞・笠置山・伍子香・鬼黒・參宮・浦嶋・龍頭・橋立龍神・大瓶猩々・七人猩々。

2笠置山・高野敦盛・正行・熊・鬼黒・駒形猩々・現在忠則・鞭文學・安犬・高安・松浦梅・多湖藤・墨染桜・枕慈童・伍子香・鞍馬源氏・花車。3飛鳥川・京落葉・碁・雪・八幡・常陸帶・鳶・身延・七面・高野物狂・鐘引・菊士童・

鶴岡・蓮生・守屋。

**60 内閣文庫本番外謡曲** 十一袋

**【形態】** 紙焼写真。袋入。

**【書誌】** 紙焼写真(二二・八×一八・三cm)。「内閣文庫1(2)

**【内容】** 現在、国立公文書館内閣文庫所蔵となつてゐる下掛り番外謡五番綴本。官立浅草文庫旧蔵本。江戸中期以降の書写だと思われる。「未11」参照。

**【曲名】** 1三嶋・長治・姫路・相羽・狩場重光。2会盟・承久・堀兼井・野草論・大木。3鎌足・影山・鷺宿梅・骸骨・日高川。4今泉・吉野三位・初瀬詣・吉備大臣・案字。5古尉・秀頼・常磐問答・末の松山・哥屏風。6撰紙集・足引・定家桜・鬚切・山崎猩々。7妙顯寺・松山・夢想松風・かしこ(花押)』とある。

**59 米沢上杉本抄出本(抄)** 三冊

**【形態】** 紙焼写真。大型冊子本。

**【書誌】** 薄茶色共表紙(三〇・一×三〇・四cm)。表紙に所収曲と「米沢上杉本(冊順)」を墨書き、青インクで「第二種の抄本也」「第一種也。一部抄本也」とあり。半葉に五六枚の紙焼写真を貼る。四十三曲所収。

**【内容】** 米沢上杉家旧蔵で現在米沢市立図書館蔵の金剛流謡本の第一・二種の一部を抄出したもの。一冊目の〈鬼黒〉まで

／曲集廿三に解説／昭和四十年二月四日／田中允識】。

**【内容】** 江戸後期書写の下掛り謡本の紙焼写真。六種は本資料の二曲二冊と桜井家伝来本(花月・安宅)からなる。調章の訂正・加筆が多い。原本の表紙見返し(もしくは遊紙)に「安能(花押)」とある。

**【曲名】** 松嶋・小萩。

61 仙台本第三種(抄)

一冊

**【形態】** 紙焼写真。大本。

**【書誌】** 薄茶色共表紙(三〇・一×二二・六cm)。仮綴。打付

外題(「仙台本第三種(全)」)と所収曲名。半葉に三枚の写真(九・一×一三・〇cm)を貼り付ける。五曲所収。田中允識語(九・一×一三・〇cm)を貼り付ける。五曲所収。田中允識語

「宮城県図書館蔵伊達文庫本五十番/十冊(仙台本第三種廃曲集廿三に解説)」の内の五番抄写／昭和四十年二月四日／田中允識】。

**【内容】** 江戸後期に書写されたと思われる下掛り節付本の紙焼写真。原本は五番綴十冊の全五十曲所収だが、本資料はその一部の写真のみを綴じたもの。「未15」参照。

**【曲名】** 雪頬朝・先帝・信夫・松尾山・丁固。

【曲名】摺上。

62 仙台本第六種(抄)

一冊

**【形態】** 紙焼写真。大本。

**【書誌】** 薄茶色共表紙(三〇・一×二二・五cm)。仮綴。打付

外題(「仙台本第六種(全)」)と所収曲名。半葉に一枚の写真(二二・六×一八・〇cm)を貼り付ける。二曲所収。田中允識

(二二・六×一八・〇cm)を貼り付ける。二曲所収。田中允識

語「宮城県図書館蔵伊達文庫/本三番一冊(仙台本第六種廃

【曲名】紙焼写真。

64 紅葉表紙本番外謡曲

十二冊

**【形態】** 複写。仮綴。

**【書誌】** コピー機にてA4判に複写し、仮綴にしたもの。現物

にある紅葉模様は複写でも確認できるが、模様は必ずしも統

一されていない。半葉六行。原文奥付なし。

**【内容】**田中允旧蔵の下掛り謡本。現在の所蔵先は不明。本資料をみる限り、原本の成立年代は江戸後期ごろだと目される。現物表紙に紅葉模様があることから「紅葉表紙本番外謡曲」と称される。五番綴十二冊、六十曲を収める。

**【曲名】**1龍神玉津嶋・涿流・東海寺・友鳥・案字。2水上・承久・空蝉・熱海・吉野天人。3吉野詣・秀次・螢・鞍馬・火鉢。4五筆・師盛・狹衣・帰雁・木幡。5豊國・吉野三位・安達静・高野敦盛・駒形猩々。6銚珠・柴田・宮城野・須磨山路・陽嘉。7御崎・現在忠度・夢想松風・鳶・馬融。8玉鉢・熊・明静・現在道成寺・忍摺。9加茂恵心・甘糟太郎・阿佛・松浦物狂・犀。10巴箇・直江・藤波・類仙香・笛之巻。11柳津・高館弁慶・郭公・北野物狂・勧進文学。

## 12吉野琴・門破・早蕨・敷路物狂・六角堂。

### 65 能楽研究所蔵金剛流番外曲謡本

一冊

#### 65 能楽研究所蔵金剛流番外曲謡本

一冊

**【形態】**紙焼写真。枠形本。  
**【書誌】**薄茶色表紙(一七・六×一九・八cm)。表紙に「能研本」と墨書き(打付)。横長題簽に曲名と「金剛流」と墨書き。袋綴の本文料紙に紙焼写真を貼る。田中允識語「法政大学能楽研究所蔵／金剛流謡本九冊ノ内六冊(残り三冊ハ／土車・綾鼓)／「江戸末期」(見セ消チ)明治「初期頃」(見セ消チ)。「十六年以後」書き足し。の／写。假綴本。紅葉合は／万延元年のことを扱う／昭和三十七年九月五日／桜井駅は明治五年／の作なりと。宝生／昭和十二年八月号に／あり／田中允識。(紅葉合)写真一枚目に「家蔵本デ校合」と朱書きし、本文に校異を書き入れる。

**【内容】**能楽研究所蔵の金剛流一番綴板綴本(請求番号・六三三)の紙焼写真。田中識語にあるように、明治初期の書写だと思われる。(紅葉合)(柴田)の表紙に「佐々木」という墨書きがあり、「桜井駅」の奥付に「明治十六年七月八日金剛宅ニ於テシテ 南栄格ノワキ佐々木滋次郎」とあるので、佐々木滋次郎が書写・所持していた本だと思われる。佐々木滋次郎(繁次郎)は今宮神社の神主だった人物。

**【曲名】**紅葉合・犀・桜井駅・碁・切兼曾我・柴田。

## 《上掛け・下掛け混合》

### 66 観世本番外謡本

四十九袋

**【形態】**紙焼写真。袋入。  
**【書誌】**八・三×二一・〇cmの紙焼写真。写真店の封筒に曲ごとに収める。封筒に「観世宗家本番外曲」と曲名・冊順を記す。

**【内容】**現在観世文庫所蔵となつている上掛け節付中心の番外謡本の紙焼写真。原本の冊ごと一袋に収める。原本は五番綴四十八冊二百四十曲であるが、そのうち三十七曲が下掛け節付となつていて(曲名で\*をつけた曲)。上掛け節付曲には「主馬殿本写」「道慶本写」「徳永御本写」などの奥付

があり、元禄前後の年記をもつ曲があるが、下掛け節付曲には奥付がない(曲名の\*は下掛け節付)。「未17」参照。

**【曲名】**1明智討・門破・母衣・東夷・比良。2宮戸龍神・現在鵜飼・國府津・獅子王・江戸鹿子。3舞獨樂・清十郎・難波土產・武藏鏡・回向院。4雪願朝・閑原与一・眞田・佐々木・追掛朝比奈。5白旗・次信・高辻・湊川・勝頼。6横笛・範頼・吉野静前・博多物狂・龍神七夕。7昭君・玉水・長柄橋・稻荷・佐國。8空蝉・京落葉・胡蝶・薄・柳。9志賀忠度・野口・楠・杉本楠・小林。10武藏塚・瓶塚・求塚・横塚・萩原。11\*田鶴・\*安斎・\*紅葉錦織・\*須磨山路・\*金尾。12星・秩父・笠置山・熊・岩瀬。13\*仲綱・琴・\*勧進文学・\*重連・\*再現山姥。14夕霧・\*孫三郎・浮瀬・\*両國橋・\*水鏡。15\*松原俊成・\*屈原・\*歌法・風・\*甘棠大夫・\*乱舞猩々。16兼好法師・中尾・櫻田・\*霞ヶ関・\*芳茗歌。17内府・空也・女沙汰・齊藤五代・泊瀬六代。18\*須磨山路・\*百合草若・\*周防内侍・\*十四経・御室千手。19正儀世守・羊・安字・籠尺八・獅子王。20鐘引・泣不動・菅丞相・輪藏・愛宕空也。21夏虫・\*恋乃火・曾根崎・梅田橋・\*世話鹿子。22重耳・獅子・飛驒工・猿丸・神・蟹蛇。23豊干・寒山・布袋・徳山・\*野草論。24護法・池贊・熱海・童神玉津嶋・三笠山龍神。25材木悪源太・卒都婆重衡・河原太郎・柴田・幽靈酒呑天童子。26草薙・橋姫・住吉詣・室住・現在江口。27家永參宮・\*現在楠・和歌吹上・達磨寺・大瓶猩々。28日光山・扇巴・郭公・箱崎物狂・

選擇集。29栗津采女・碁・總角・宮城野・露。30御崎・額稻荷・引鑑・江嶋龍神・九穴。31松竹・\*勝頼・\*鈴虫・杖銀杏・深見草。32西宮・\*金王丸・\*連理松・\*雪鬼・檜塚。33太子・上官太子・三井水・烟巖山・椿。34蛙・鷺・初雪・筑摩川・鷺。35星下・明星梅・現在七面・七面・身延。36大施太子・玄上・行基・多聞天・馬融。37家持・棹川・巻絹・兼元・玉執。38涿鹿・武王・會盟・范蠡・呂后。39信夫・身賣・弓繼物狂・島廻・松嶋十八景。40福井瀧口・二度掛・座敷論・愛壽・和田酒盛。41双紙洗・北野物狂・貴布祢・小大進・妬繪馬。42松浦姫・濡衣・野寺・三山・堀兼井。43\*貞若・\*嵯峨野草・\*借上松風・歌舞妓・彦作。44高塚・晦丸・あえた池・\*如來善光・\*頼方。45豊國詣・大坂眞田・柳・松浦梅・誕生寺。46權守・千人切・春時・大聖寺・眞鳥。47丸子・巖洞・長卿寺・飛鳥寺・東心坊。48伶倫・筆捨松・田舎道成寺・蜻蛉・隱里。49宮城野・不斷櫻・岡崎・狹衣・大木(いづれも零本)・その他錯簡本を含む

### 67 観世本番外謡本(抄)

五十九袋

**【形態】**紙焼写真。袋入。  
**【書誌】**一二・〇×一六・三cmの紙焼写真。写真店の封筒に曲ごとに収める。封筒に「観世本」と曲名・冊順・番号(何を指すかは不明)を記す。

**【内容】**前資料の一部を引き延ばし写真にしたもの(曲名に\*を付けたものは下掛け節付)。

**[曲名]** 阿弥陀池・\*安貞・浮ふ瀬・梅田橋・江戸鹿子・追

掛鉈木・蜻蛉・\*霞ヶ関・筐巴・\*金尾・蟹蛇・兼尾・瓶  
塚・晦丸・兼行法師・\*恋の火・\*金玉丸・\*嵯峨野草・桜  
田・\*十四経・\*重蓮・白旗・清十郎・\*世話鹿子・\*僧上  
松風・選擇集・曾根崎・高辻・達磨寺・筑摩川・秩父・重  
耳・杖銀杏・徳山・難波土産・\*如来善光・妬絵馬・範頼・  
春時・彦作・秀顕・深見草・寶永參宮・\*芳名歌・郭公・松  
嶋十八景・\*松嶋俊成・宮戸竜神・明星梅・武藏鎧・\*紅葉  
錦織・\*野草論・夕霧・幽靈酒呑童子・弓継物狂・横笛・吉  
野靜前・\*両国橋・\*連理の松。

### 68 仙台本第一種

#### 六十四冊

**[形態]** 紙焼写真。大型折形本。

**[書誌]** 薄茶色共表紙(三〇・四×三〇・二cm)。仮綴。打付  
外題「仙台本第一種」と所収曲名。半葉に六枚の写真(七・  
一×一・二cm)を貼り付ける。十番綴六十一冊、十一番綴  
三冊。全六百四十三曲所収。大き目に刷った紙焼写真を挟む  
(封筒入。ない曲も多い)。

**[内容]** 下掛り節付番外譜本(千百番組・別組には上掛け節付  
が交じる)の紙焼写真。江戸中期ごろ書写された譜本の紙焼  
写真。六百番組・七百番組・八百番組・九百番組・千番組  
(以上、十冊一組)・別組(四冊)から成る。表紙に「六之一」  
「七之三」のように組・冊順が記載されているが、この記述  
方法は原本を踏襲する。【未15】参照。

**[曲名]**

六百番1江野嶋・秀頼・花咲・童堂・雪頼朝・近江八景・小  
栗・弘文成・鬼獣師・瓜。2三笠山・竜虎・京落葉・籠破  
須磨源氏・江嶋竜神・山中常盤・藤房・竜・掘兼井。3松  
尾・幽靈曾我・郭公・嶋廻・花丸・三笠竜神・池賀・磯崎  
由良物狂・黒川。4吉野詣・巴・明石・三山・常陸帶・塩  
竪・勝家・法事静・住吉物狂・羅漢。5諫訪・幽靈信夫  
螢・関原・板敷山・忠比酒・花盜人・野上物狂・愛染川・笛  
卷。6童神浦嶋・笈扒・寒山・葛城天狗・巖狸々・二柱・芳  
野判官・西川御幸・北野物狂・相羽。7呂后・高野物狂・長  
谷六代・隱岐・石橋・熱海・北條・径山寺・笛物狂・芳野三  
位。8身延・楠花櫓・飛鳥川・夢一字・甘糟・今泉・荊軻・  
鴻津・玉水・長柄。9大般若・碁・藤・護法・篠村・松尾  
山・現在簾・正尊・木曾願書・輪藏。10松嶋・義経・雪・小  
萩・逢坂盲目・温泉寺・梅若丸・常縁・松浦物狂・須磨寺。  
七百番1鹿嶋・俊基・莫若・狩場曾我・笠置山・武王・現在  
巴・守・九日橋・楯尾。2田鶴・陽嘉・論儀狐・景山・親  
平・戴安道・硫黄鷗・筆捨松・生捕盛久・水鏡。3丁固松・  
賴方・黒谷詣・内海・高雄・山家翁・鑑輪重衡・兼載桜・樊  
会・鞍馬判官。4聚楽・兵庫桶・九品・諸葛孔明・女狼・補  
陀洛山・白杵・舟魂・夏虫・潮干。5吉野桜・河原太郎・初  
雪雞・戾橋・介之推・泰山府君・沼搜・形見糸繰・御坊曾  
我・長柄人柱。6水上・次信・光明皇后・常春・神泉苑・玉  
等・談天門院・脈論・咒咀・顯光・善信。7陶淵明・義朝・  
等・談天門院・脈論・咒咀・顯光・善信。7陶淵明・義朝・

琴・延喜・清水冠者・滑川・正成・破束頬等・剣曾我・西琳  
寺。8松竹・材木義衡・興福院・硯破・明智・法花会・韓  
信・高野詣・象・足引。9寄辺水・赤間関・箱崎物狂・六阿  
弥陀・横川坊・火鉢・義貞・御善薩池・花見曾我・鬼神往生。  
10多門天・鎌田・天目山・櫃切曾我・当願暮当・行基・長  
治・猿丸神・康頬・生卒都婆。

八百番1布引松・中尾・鶯宿梅・山鳥・琵琶池・閑居・大原  
詣・桜前・郭橐駒・裸鬼。2三井・幽靈清重・酴醿・二人  
児・更科祐近・小学・梅乙女・小大進・木引善光寺・富士天  
狗。3金童山・杉本楠・住吉源氏・鰐・浮舟・蛇姫子・法海  
寺・往生院・玉川・江藻髪・鞍馬。4豈園・二位尼・市原小  
町・一枚起請・初瀬詣・日光山・孫三郎・牡丹・革袴・初花。  
5扇宮・先帝・夢相松風・染衣・牡丹燈籠・和光・四季・四  
町・望夫山・勸進文学。6一夜天神・難波梅・菊・住連坊・  
丸子・行賀・鳥羽・思出川・花鳥風月・古井。7鷹・楚佐・  
横笛・回向院・室山・郭巨・鸚鵡鳥・面頬・博多物狂・武俊。  
8朝熊詣・鷹飼・助成寺・歌屏風・松浦姫・賀茂次郎・寺  
泊・唐橋・鬼物狂・根本蛙。9布袋・為家・瑞穂君・春日神  
子・熱田童神・維摩居士・鳴立沢・山本小町・天王寺物狂・  
飛彈工・10納涼・人麿・臘女・馬頭涙・袖漆・屈原・明静・  
雲林院小町・時雨物狂・盛近。

九百番1古厨・勝頬・涼・行滝・嵯峨川・河原寺・亀破坂・若  
紫・伊吹山・竜松。2育王山・坂落・法華寺・官金・蟹満  
寺・吉備公・古河渡・雅木・瓦塚・閑谷刀。3許由・武者

## 【形態】透写本。小本。

〔書誌〕 桜紋模様白茶色表紙（一五・四×一一・四cm）。水色横長題簽に曲名・冊順墨書。本文料紙は薄様紙。全丁間紙あり。半葉七行。奥書なし。全冊裏見返しに田中允奥書「田安本七十冊ノ内」あり。全三五〇冊所収。

〔内容〕 五番綴本。田安徳川家旧蔵で、現在鴻山文庫藏（三四）。五百番本に所収されていない曲を中心に集めた番外譜本。大半が下掛り謡本であるが、六十曲は上掛け節付けになつていて。『鴻』・『鴻上』参照。

景清・湊川。10比叡山・現在実盛・三河千手・武藏野・門破・御騎乗・高重・恥川・百合草若・泰平猩々。  
 千百番1宮嶋童神・師盛・八塩・宰府藤・足利文珠・鎌阿上人・印杉・末松山・村鳥・桜隱。2慈恩寺・賀名生・吹上・御法・藤代峠・柏手・道命法師・奈良晒・難波津・梶井宮・3清明・楠正成・滝見小町・都松・再現山姥・箸塚・弥子・深草野・吳原・波分船。4鷺森・十津川・深江浦・六元・欲闇・穢篠寺・東山・遊警上人・北野葛城・伊豫湯。5九穴貝・雀森・鳥坂・矢田寺・醒井・茶翁・外浜・柳陰・一遍上人・反橋。6十握劍・井上宮・六田淀・鷹尋・夏雪・道元和尚・雨夜塚・桜姫・錢掛松・投地藏。7咲屋姫・伊東祐氏・高安小町・天川・岩橋・衰豊臣・頼豪・青梅原・市ヶ谷物狂・土大根。8東野・柳刀・布施畑・根元鶴・橘寺・川越名号・須磨笛・形見合・井手詣・足柄山。9沈水香・熊・御影堂・烏屋野・天竜鬼神・入定・水馴川・錢原觀音・巖嶋詣・子嶋寺。10和歌天神・菊王・六波羅・潮干物狂・宇治橋・達摩寺・仲綱・雪月花・塔沢・金山。

別組1村田・外郎・大職冠・現在海士・泗浜石・万戸・上付・伽羅物狂・文物狂・十市。2雪比丘尼・笠附・紅葉見・多門寺・酒中花・高麗婦・五百羅漢・片岡・南淵山・血原・宝寺。3炭火橋・壬生・狂獅子・鬼・国上寺・吉備津宮・黒血川・秋仲・坂田尼・長谷寺・白目。4藤原宮・比礼振山・御法舟・恋塚寺・姥火・誕生石・梅宮・清滝川・降籠・朝原・新鳴立沢。

2鹿鳴・小尉・三藏法師・幽靈信夫・愛宕牛若。3関原・直江・文僧都・閑居・真榮。4諏訪童神・骸骨・武王・弓縫物狂・鬼ヶ淵。5維摩居士・竜ヶ崎・倩女・一夜天神・丁固。6薄雪・西方寺・富樫笈搜・臼杵・御田植。7竜神鹿鳴・小野篁・普導寺・藤崎・相模川。8阿黒王・談天門・葉性論・門破・荒次郎。9三笠山・籠尺八・狩場重光・金王丸・蛭。10鎌倉山・沼搜・劍章神・柳津・秋仲。11兼好法師・住吉物狂・姥ヶ火・根元猩々・玉水。12九日橋・金尾・望天山・張文成・藤房。13清閑寺・十番切・真鳥・幽靈楠・敵論。14熱田龍神・文物狂・七種・菖蒲・康頬。15後京極・玉川・郭公・忍婦摺・内海。16松尾・馬頭涙・虎鍔・人参・龍口寺。17富士浅間・人形・玉鉢・安斎・仁慶。18芳野桜・秀郷・卒都婆子・陶淵明・赤壁。19松竹・筆捨松・往生院・四町・松

糸仙人。52足引・瀬良田・勧進文覚・法隆寺・福井瀧口。53長柄・高館弁慶・徳山・春日神子・楠。54更科祐近・日高川・記念巴・初瀬詣・為家。55嶋渡・博多物狂・雪・根元龍田・人丸西行。56熊・箱崎物狂・三鷗・常磐問答・歌屏風。57江藻髪・恋妻・祐氏・依智・類仙香。58根笛・吉野三位・飛鳥川・現在道成寺・甘糟太郎。59三井水・北野物狂・明石上・盛近・金沢猩々。60乱舞猩々・勾當内侍・阿古屋の松・花月宴・御坊曾我。61龍神橋立・許由・水汲・小夜砧・初瀬西行。62比叡山・鞍馬・追掛時宗・竹生嶋経正・御駒乘。63行家・清重・横山・満仲・太刀堀。64琴・如來善光・白魚・吉野判官・焼火山。65小玉浮舟・黒川・笛の巻・宮城野・石山義衡。66乙平・恒盛・近平・瀧口・長柄橋。67教経・雪猩々・村木義衡・吉備大臣・欽冬。68守・駒牽・久能・和泉式部・花孝養。69菊・義朝・万葉菊・須磨寺・夏雪。70現在千方百茂恵心・阿佛・由良物狂・富士天狗。

〔下村本一印十八冊之中〕とあり。

〔形態〕透写本。包背装中本。  
 〔書誌〕 花紋散らし模様白茶色表紙（一七・八×一二・六cm）。五番綴。十八冊。横長題簽。各冊「一」及び冊順墨書。本文料紙は薄葉紙。半葉六行。原文奥付なし。全冊裏見返しに「下村本一印十八冊之中」とある。  
 〔内容〕 田中允奥書（梅印）〔書誌〕にあるよう、京都大丸百貨店旧経営者下村家が旧蔵していた番外譜本で、現在原

本は天理図書館に購入され収められる(『国書総目録』番外譜

本15)。合計百六冊、六百七十五曲を収めた番外譜曲集大成とされるもので、これは能勢朝次氏が戦前忠実に写したものと判断され、筆跡も種々雑多、複数人の手からなり、節付も上掛り・下掛け入り混じるなど粗雑なところが多い。しかし珍曲も多く仙台本第一種に匹敵する資料的価値があるとされる(『末24』「下村本解題」参照)。解題によると、原本には若干の欠本があるとの推定もなされる。資料的性格は、ト印・万印・松印・竹印・梅印も同様。

**【曲名】** 1 美方・竹弄・姥桜・法華会・現在道成寺。2 富士山・泉岳寺・姥か火・駿路・雪猩々。3 吉野詣・柴田・高野詣・明智討・氏政。4 巴園橘・貞任・恋松原・花丸・彭祖仙人。5 神草・舟戻・藤・敷地物狂・難波猩々。6 馬融・水汲・手原・兼載櫻・成田山。7 絵馬・烏帽子折・朝顔・温泉・笛の巻。8 近江八景・鶴若・常盤問答・直家・樊噲。9 凰来寺・師盛・泊瀬寺・二人神子・因幡猩々。10 吉備津宮・熊・花孝養・脈論・沼搜。11 龍月夜・蟹か坂・妬の絵馬・黒谷詣・降魔。12 雨乞・横山・稻荷・白山・太刀堀。13 嶽嶋・関戸早川・付藻髪・十四絃・當岸暮頭。14 菖蒲・禪師曾我・露の宮・貴布祢・劍竜神。15 真名井原・阿具留王・鷹飼・六月祓・武文。16 斎宮・志賀忠度・瓶塚・泣不動・経頼。17 神樂・大參宮・満仲・善導寺・塩竈。18 天日山・有馬山・濡

**【曲名】** 1 許由・世良田・紫野の露・浦ヶ部・根元蛙。2 龍神浦島・先帝・薄・牢尺八・松山西行。3 九日・追蒐時宗・蜉蝣・吉備大臣・第六天。4 神在月・館尾・業平・戻橋・髭切。5 菊水・笠置・星くたり・あたみ・酒徳猩々。6 小大進・景利・花鳥風月・兼元・はないくさ。7 松鶴西王母・清時田村・虎をくり・六代文学・長柄人柱。8 う乃祭・みなと川正成・瀧口よこ笛・小松教訓・飛雲。9 さか鉢・義貞・住吉はし姫・比良・鱗形。10 三輪童子・俊基・光明皇后・劍曾我・再現道成寺。11 八重桜・はま川・うつせみ・弓継物狂・伶倫。12 蛭子・高野物狂・ほたる・そとは流・合浦。13 夕・鈴木・玉川・御房曾我・千曳。14 三笠山・一来・蓮姫・松浦物狂・現在海人。15 ひえい山・草刈曾我・はつ雪・布袋・革袴。16 天橋立・湯浅・末の松山・二荒房・真鳥。17 龍神橋立・行家・むさし野の露・祐近更科・安録山。18 鯉魚・

衣・真如堂・和泉猩々。

### 71 下村番外譜曲 ト印

**【形態】** 透写本。包背装中本。

十九冊

**【書誌】** 花紋散らし模様白茶色表紙(二〇・八×一四・八cm)。五番綴。十九冊。横長題簽。各冊「ト」及び冊順墨書。本文料紙は薄葉紙。半葉五行。原文奥付なし。十二冊目に「下村本 脊子 山本勝一氏ヨリモラフ 1932.7.17」と書かれたコピー挿入あり。全冊裏見返しに「下村本ト印十九冊之中」とあり。

### 72 下村番外譜曲 万印

**【形態】** 透写本。包背装中本。

二十冊

楠花やぐら・ねざ・根元鶴・西の京。19 花見曾我・白杵・鶴鳴・鞠源左衛門・空景清。

光・類仙香・池上・入江浦。19 浮舟張良・切兼曾我・相坂・秋仲・康頬。20 玉嶋川・杉本楠・田舎夕顔・汐干・江嶋龍神。

【書誌】花紋散らし模様白茶色表紙(一八・一×一二・八cm)。五番綴。二十冊。横長題簽。各冊「万」及び冊順墨書。本文料紙は薄葉紙。半葉六行。原文奥付なし。全冊裏見返しに「下村本万印二〇冊之中」とあり。「羅漢山・童子・紫乃上・草津・駒形猩々」のコピーブロッキングあり。

【曲名】 1 駒牽・竹生島經正・まもり・むかし男・人形文覚。2 枕慈童・氏茂・るり君・由良物狂・幽靈童子。3 名所松嶋・白井松嶋・早蕨・柏木・右衛門桜。4 うたたね小町・高安小町・絵馬小町・市原小町・佛小町。5 法隆寺・吉水・徒然草・兼実・野口判官。6 羅漢山・童童・紫乃上・草津・駒形猩々。7 富士見小町・雲林院小町・山本小町・花小町・清水小町。8 公任・福井瀧口・燕・笠祇王・番頭崎猩々。9 参宮・国姓爺・法事靜・鷹・陀羅尼伊行。10 五臺山・秦治時・雲林院佐國・大原詣・玉簫。11 謙訪・秀頼・桜乃前・姥嶽・豊後大蛇。12 小野詣・門破・磯崎・妙顯寺・一ツ家。13 男・大森楠・篠田森・那須狐・野干。14 西川御幸・長治・書写式部・野上物狂・靈橋姫。15 三尾・教経・うつら・牛・根元猩々。16 国阿上人・諸葛孔明・筑紫空也・きく・三河猩々。17 聚楽・柳瀬・御法・富士浅間・龍口守。18 御駒乗・狩場重

### 73 下村番外譜曲 松印

**【形態】** 透写本。包背装横長大本。

二十冊

光・類仙香・池上・入江浦。19 浮舟張良・切兼曾我・相坂・秋仲・康頬。20 玉嶋川・杉本楠・田舎夕顔・汐干・江嶋龍神。

【書誌】花紋散らし模様白茶色表紙(一八・〇×二二・〇cm)。十番綴。二十冊。横長題簽。各冊「松」及び冊順墨書。本文料紙は薄葉紙。半葉十一行。原文奥付なし。全冊裏見返しに「下村本松印二〇冊之中」とあり。

【曲名】 1 三井の水・影山・明石乃上・玉水・相坂物狂・牡丹・靈昭女・高野山・狂獅子・虎鷺。2 丁固・談天門・梅乙女・人參・梅花・根元龍田・芳野三位・徑山寺・笠・嫗兼。3 少尉・現在寅盛・宮城野・花月宴・東山・乙平・春日王子・文僧都・甘糟太郎・陽嘉。4 阿古屋の松・材木義平・定家桜・佛・山吹・夏の雪・現在簾・法印問答・大森彦七・築嶋。5 藤崎・雪頬朝・槌折砧・文物狂・直江・徳山・後京極・雪・閑ヶ原・火鉢。6 空隱・義経・有子内侍・住吉物狂・金王桜・生田忠度・多門寺・思い出川・唐糸・玉泉坊。7 和銅・相模川・麗女・延年那須・足引・室山・荊軻・育王山・丁固乃松・地獄廻。8 玉鉢・十番切・四季・郭巨・母衣・武俊・水上・秀次・松尾山・瓜盜人。9 輝姫・義朝・薄雪・匂当内侍・宇治物狂・初花・生捕盛久・高館弁慶・昔語・智略長良。10 水神森・荒次郎・往生院・鏡か池・命々鳥・小栗・現在錦木・延喜帝・兜詔顯光・鬼神往生。11 大内

裡・石山義平・鶯宿梅・須磨寺・清水冠者・木魂浮舟・相羽・夢の一字・敵論・明静。12八幡山・河原太郎・つくもかみ・姥か池・書写性空・立禪寺・介之推・鸚鵡鳥・戴安道・鞍馬。13一本菊・韓信・時雨・山中常盤・犬寺・富権笈搜・石竹・明星梅・梶井宮・琵琶か池。14熱田童神・追善楠・難波梅・種尾・飛彈工・生卒都婆・為家・筆捨松・北国落・三藏法師。15一夜天神・竜ヶ崎・倩女・似せ菊・板敷山・山鳥・北野・竜・みそろ池・猿丸神。16多門天・現在千方・雪婦・栄芳・松浦梅・泊瀬西行・鳴立沢・樂天童神・盲沙汰・黒川。17鎧・幽靈清重・夢想松風・万葉菊・鎌田・笛物狂・現在敦盛・信田・大塔宮・懸。18鹿嶋・近平・忍摺・児か淵・北野物狂・行基・武王・草刈行平・愛宕牛若・骸骨。19留林寺・光季・恩妻・栗津采女・東海寺・大聖寺・金盟・金剛山・鳩・伊豆文学。20帰雁・承久・安達靜・玉取・身壳・空也・婆相天・星・梅鑑・巖猩々。

## 74 下村番外謡曲 竹印

二十冊

## 75 下村番外謡曲 梅印

九冊

【形態】透写本。包背表装中本。

【書誌】花紋散らし模様白茶色表紙(一八・〇×一一・六cm)。

五番綴。二十冊。横長題簽。各冊「竹」及び冊順墨書き。本文料紙は薄葉紙。半葉六行。原文奥付なし。全冊裏見返しに「下村本竹印二〇冊之中」とあり。

【曲名】1象・法藏比丘・跋望月・時雨物狂・都藍仙。2鎧足・祇園沙汰・栗柄桜・仙相撲・富士天狗。3まる子・赤間

閔・かた見糸繰・ふち房・遊仙窟。4鶴橐駄・花盆人・寄邊水・血熊川・名立。5鴨恵心・滑川・梅若丸・銀杏森・姫路朝比奈。6天橋龍神・現在長良・くほん・馬頭涙・岩戸猩々。7舟魂・兵庫楠・四町・依智・祝言猩々。8維摩・吉次・花咲・齊藤丸・破來須等。9納涼・高館・三河千手・望夫山・金沢猩々。10留春・武藏野・西行塚・鬼物狂・鬼獣師。11陶渾明・為朝・螺女・赤壁・久米仙人。12三笠童神・次信・むめ寺・横川坊・目蓮。13弘計億計・住蓮坊・信濃杜若・論議狐・水滸。14焼火山・義経・二位尼・五智如来・寺泊。15那奈草・庵六代・そとは子・ませ菊・長柄。16補陀洛山・鑪重衡・西方寺・閑居・蛇雞子。17御田植・祐氏・阿佛・黒谷・須磨猩々。18泉賢將・鬼同丸・唐橋・高雄・古井。19朝熊諦・吉野判官・染衣・牡丹燈籠・蟹蛇。20宝長良・櫃切曾我・人麿西行・山家翁・裸鬼。

## 76 谷村本番外謡曲

十五冊

【形態】紙焼写真。仮綴。

【書誌】花紋散らし模様白茶色表紙(一八・二×二三・四cm)。

十番綴。九冊。横長題簽。各冊「梅」及び冊順墨書き。本文料紙は薄葉紙。半葉十一行。原文奥付なし。全冊裏見返しに「下村本梅印九冊之中」とあり。田中允奥書「右能勢朝次先生御蔵本を以て透写了」能勢本は/京都丸百貨店主下村家蔵本の透写本也。下村本/は近世中期頃写して数人乃至十数人の筆になれる/番外謡曲大集成本の由也/内訳/一印

万印 五番綴 二〇冊 一〇〇番/松印 十番綴 二〇冊  
一九九番/竹印 五番綴 二〇冊 一〇〇番/梅印 十番綴  
九冊 九一番/計 一〇六冊 六七五番(一二三等の序数は原本にく私に假に附す)/昭和十九年十一月三日 田中允識/下村本は最近天理図書館に購入されたので/能勢本を下村原本と対校した所 甚だ忠/実なる透写本であることを確認せり/昭和二十五年十二月二十五日/田中允追記)。

【曲名】1日光山・扇巴・郭公・箱崎物狂・駕のはし・選択集・面図・国府津・宮戸川竜祥・獅子王。2兼好・中尾・さくら田・霞ヶ関・芳茗歌・祐成寺・苦楽丸・阿弥陀ヶ池・如来善光・頬方。3舞駒・清十郎・難波土産・武藏鎧・回向院・夏ノ虫・恋ノ火・曾根崎・梅田橋・世話鹿子。4豊國詣・大坂真田・柳・松浦梅・誕生寺・八景金竜山・鬼橋姫・友鳥・追駆鈴木・龍神姥ヶ池。5西宮・金王丸・連理松・雪鬼・檜塚・横笛・範頼・吉野詩前・博多物狂・七夕龍神。6田鶴・安齋・紅葉錦織・須磨山路・金尾・松嶋俊成・屈原・哥屏風・甘樂太夫・乱舞猩々。7宝永参宮・現在楠・松の雪・達磨寺・池賛・今泉・現在鶴飼・和歌吹上・呂后・大瓶猩々。8貢若・嵯峨野草・倦上松風・名古屋・芳哥舞伎・夕霧・孫三郎・浮ム瀬・両国はし・水鏡。9松竹・勝頼・鈴虫・杖銀杏・深見草・仲絆・琴・勧進文学・重蓮・再現山姥。

## 77 早稲田大学演劇博物館蔵番外謡本

三冊

【形態】写真。

【書誌】通常のし判写真(八・二×一一・二cm)を紙製のアルバムに収める。

【内容】現在、早稲田大学演劇博物館所蔵となつてゐる江戸期に新作された番外謡本の写真。以下の三種がある。  
①宝暦六年冬豊嶽屋刊本の写真  
写真三十四枚。原本は三番綴で〈無間鐘・和藤内・忠臣

藏所収、宝暦六年豊嶋屋徳十郎刊。後人の合綴本の可能性が高い(『演博』)。いずれも歌舞伎に取材した謡。

②刊年刊者不明一番綴本の写真

写真「二十四枚。原本は(和藤内)と忠臣蔵の一一番綴本。二

曲とも①と同版(前書『謡一三四八・三四九』参照)。

③刊年不明一番綴本の写真

写真「三十八枚。原本は(久賀躬)〈白うるり〉(無漏寺)の一番綴本。(前書『謡一三五一・三五八・三五九』参照)。(久賀

躬)の原本の裏見返しには「萬元/呈筆川樂山雅丈」とあ

る。幼雷の神をシテにした謡。『未3』に翻刻。「徒然草」

に取材した(白うるり)は刊者不明。享保頃、俳人・我笑の

作と目されている(西野春雄氏「享保前後の新作曲」(能

楽研究)七号)参照)。「未続6」に翻刻。(無漏寺)の原本

には東武野人の序がある。(藍染川)の類曲。「未続14」に

翻刻。

## 78 鴻山文庫蔵番外曲謡本・特殊謡本

一箱

## 79 信夫謡本複写

二部

コピー機にて複写した能楽研究所蔵上杉家旧蔵下掛り番外謡本(B4判、二十七枚)と松井文庫蔵妙庵玄又手沢五番綴謡本(B5判、四十六枚)所収の(信夫(現在信夫))をそれぞれ白糸で仮綴じした資料。西野春雄氏書簡入り。

## 80 鳴山文庫蔵番外曲謡本・特殊謡本

一箱

【内容】鴻山文庫に所蔵されている番外曲謡本資料の一括。

番外謡本(大分類・「三」)・新作謡本(「九」)は紙焼写真(一  
二・〇×一六・五cm)。一種ごとに写真店紙袋に收める)、謡

本特殊(「一一三」「三三二」)はコピー機にてB4判に複写。以下、  
曲名に請求番号を付す。

【曲名】《紙焼写真・横笛・太施太子・馬乞(三2)》。小倉山・

## 二 部分謡

### 《上掛り》

#### 1 嘗流拾遺蘭曲大成 (元禄十二年版)

二冊

#### 【形態】刊本。半紙本。

【書誌】布目地青色表紙(一三三・〇×一六・〇cm)。左肩長形

題簽。本文料紙は楮紙。半葉七行。下巻に奥付「右百番之久  
世舞蘭曲大成」者以觀世右近太夫當流之/正本改正合板行者  
也/干時元禄十二巳卯歳九月吉日/京寺町通誓願寺下ル町/

秋田屋五郎兵衛新板」とあり。題簽には「〔當流拾遺〕蘭曲  
百番」とあり、その上巻見返しには「觀世當流 秘密蘭曲嘯  
月堂」と、下巻には「當流外蘭曲」とある。

【内容】『鴻』一〇七の解説によれば、嘯月堂刊「秘密蘭曲」  
一〇三九上下二冊と西村嘯月堂刊「當流外蘭曲」一〇四〇上下二  
冊の四冊を上下二冊にまとめたもので、復刻本にあたる。

2 遊歎小謡童蒙集

#### 【形態】刊本。半紙本。

一冊

## 3 萬歳小謡昇平樂

#### 【形態】刊本。半紙本。

一冊

【内容】『鴻』一〇一に解説あり。『宴樂小謡童要集』一〇一〇  
の末六葉を除き、別本として刊行したもの。百一曲の小謡を  
収めたもの。

## 冠尽

・「不成就日」などがある。刊記「小謡本雖多世間依有  
章/句語今亦以觀世左近太/夫正本寫之並加當流/秘密令改  
板者也/大阪心齋橋筋北久太郎町北入/河内屋喜兵衛」とあ  
り。帙題簽に「小謡集(一)」として一三・一四・一五と同  
帙。

【内容】『鴻』一〇一に解説あり。『宴樂小謡童要集』一〇一〇  
の末六葉を除き、別本として刊行したもの。百一曲の小謡を  
収めたもの。

【書誌】雷門繋ぎに丸竜模様入白色表紙(二一・八×一五・三  
cm)。中央に横長題簽「謡曲湧知」萬歳小謡昇平樂大成。  
扉絵あり。能起源説に関わる絵図七丁。目録二丁。内題「萬  
歳小謡昇平樂」。本文料紙は楮紙。半葉九行。四周单辺。版  
心、白口單黒魚尾に「増補首書」「童子諸藝大全」〇と  
刻す。頭書に能樂起源説・諸流・謡など能樂全般について解  
説、「篇冠字尽」など童子啓蒙に関わる内容を載せる。刊記  
「享和二年壬戌二月発行/安政二年乙卯年正月再版/発行/  
書肆/江戸日本橋壹丁目/須原屋茂兵衛/京都三条御幸町/  
吉野屋仁兵衛/尾州名古屋本町/菱屋藤兵衛/越前福井斤町  
通/鷹屋與兵衛/伊豫松山本町壹丁目/袴屋金七/大阪心齋  
橋北久宝寺町/河内屋源七郎板」。帙題簽に「小謡集一  
(一)」として一二・二・一四・一五と同帙。

【内容】『鴻』一〇三に解題あり。この小謡集は奥付に「享和二年壬戌二月発行」とあるように享和二年刊「万歳小謡昇平樂」一〇二の再版。春(五三)、夏(十五)、秋(三七)、冬(十二)、雜祝(六四)、追善(十五)、祝言(八)にわけて合計二百四曲の小謡を収める。

#### 4 當流小謡種玉大成

【形態】刊本。半紙本。

一冊

【書誌】菊模様絵入青色表紙(二二・二×一五・五cm)。左肩題簽「當流小謡種玉大成」(大半が剥落)。扉絵あり。目録二丁。内題「當流百番小謡」。本文料紙は楮紙。半葉九行。四周單邊。頭書に萬字尽・文字筆勢の心得。大日本國名尽・当要字づくし。刊記「文政六年癸未三月発行／河内屋儀助／大阪書林／心斎橋通博労町角／河内屋茂兵衛板」。

帙題簽に「小謡集(二二)」として二二・二三・一五と同帙。

【内容】『鴻』一〇九に解題あり。同名「當流小謡種玉大成」一〇二の再版とみられるもので、春(四四)、夏(十八)、秋(三三)、冬(九)、雜(九)の合計百十六曲の小謡を収めたもの。河内屋儀助は店名が「種玉堂」なので、書名もそれによつたのであろうとされる。

#### 5 祝儀小謡萬歳樂

【形態】刊本。半紙本。

一冊

【書誌】花に蜀江繁ぎ空押浅葱色表紙(二二・三×一五・五cm)。左肩長形題簽。

田中允筆目録あり。田中允識語「大和音曲之抄 曲舞」両書／共 観世宗家藏「一齋宗節／節自筆本也／昭和四十一年六月五日／田中允識」。

清・頬見世百万・酒よりまさ・相撲花月・達自然居士・簞鉢木・酒はちの木・野郎供養。

一冊

#### 7 大和音曲之抄・曲舞

【形態】写真。大型横本。

【書誌】羽散らし浅緑表紙(六・二×二三・一cm)。長形白題簽に「大和音曲之抄／曲舞」と墨書。本文料紙一丁目に各書の

田中允筆目録あり。田中允識語「大和音曲之抄 曲舞」両書／共 観世宗家藏「一齋宗節／節自筆本也／昭和四十一年六月五日／田中允識」。

【内容】現在、観世文庫所蔵となつてゐる観世宗節筆の曲舞集二種の写真。漢字片仮名混じりで書写するという宗節の特色が見られる。両書とも曲舞集としては最古の部類に属する貴重な資料。「大和音曲之抄」の原本は上・下二冊で、一冊目末に「服部／宗節「花押」とある。「曲舞」の原本は一冊で、遊紙と思われる料紙に「くせ舞ひあり 宗節」とある。

#### 8 光悦曲舞三十六曲本

一袋

【形態】紙焼写真。袋入。

【書誌】紙焼写真(一六・四×二〇・四cm)を茶封筒に收める。

全六十五枚。最終紙裏面に「東洋文庫藏／光悦曲舞／三十六曲本／昭和四十二年 十二月七日／田中 允誌／表紙二久世舞ト題簽アリ」と記す。

【内容】現在、東洋文庫に所蔵されている光悦曲舞本(嵯峨本

cm)。左肩題簽「祝儀小謡萬歳樂」と刻す(一部剥落)。扉絵あり。目録二丁。本文料紙は楮紙。各丁間に薄手の楮紙を挿み込む。四周單邊。版心、白口・单黒魚尾に丁付を刻す。半葉十行。墨付二十九丁。頭書に萬字尽・商売往来・十二月の異名などあり。刊記「此本者觀世左近太夫／以章句寫之並加當流／秘密悉令改正者也／弘化三年丙午十一月補刻／大阪心斎橋筋北久太郎町北入／書林 河内屋喜兵衛」。帙題簽に「小謡集(二二)」として二二・二三・二四と同帙。

【内容】『鴻』一〇三に解題あり。この小謡集は「祝儀小謡萬歳聲」一〇二の同版の後刷とみられるもので、先行するものに附載部分(諸礼図式と二十四孝絵抄)を欠くものとされる。

#### 6 亂曲扇拍子

【形態】刊本。横長小本。

一冊

【書誌】薄茶色表紙(一〇・九×一六・一cm)。左肩長形題簽。

本文料紙は楮紙。半葉八行。奥付なし。序文に「初春吉祥日／轉長六」とある。

【内容】替え歌集。十八曲。序文に「やつし諷取合て十八番拍子も章も其まゝにて文句少々おかしき事につくりかえ(云々)」とあることからも、そのことがわかる。『日本庶民文化資料集成 第三卷(能)』(三一書房、一九七八年)に翻刻あり。

#### 9 曲海

【形態】透写本。枠型本。

一冊

【書誌】薄茶色表紙(一〇・五×一九・一cm)。表紙は一部剥落。左肩長題簽に「曲海 江島本」と墨書。遊紙一丁。内題「曲海」。目録三丁。本文料紙は薄葉紙。全丁間紙あり。墨付一九九丁。田中允與書「右以江島伊兵衛氏御所藏本透写した原本ハ枠型本ニシテ大和綴画一面書ナリ。川瀬一馬氏ハ慶長(書き入れ「乃至寛永」頃ノ写本ト推定サル)／昭和十七年十月廿七日／田中允識」とあり。追記として「江島氏ハ草屋本の研究十六頁ニ於テ「この本の所持者が大和宗恕に稽古をした旨を書き入れてある箇所が見えるか/ら宗恕が歿した慶長元年(緑色ペン)で書き入れ「一六〇四」(大日本史料による)前後のものと/考へて宜しからう」ト述べラレタリ。京観世浅井織之丞家ノ家傳ノ書ノナリ。／昭和二十年七月二十三日／田中 允追記」とあり。白色角裂あり。書背に「曲海」と墨書。鉛筆・赤鉛筆での書き入れ多し。

【内容】現在、鴻山文庫所蔵となつてゐる浅井織之丞家旧蔵「曲海」(一三七)の透写本。原本は江戸初期の書写で、上掛り節付が中心だが、鳥養道断本など下掛け節付本の影響も見られる。番外曲研究の貴重な資料(表章氏「車屋謡本新考

三」（『能樂研究』十四号、一九八八年）参照）。

### 10 曲舞小調集

【形態】複写。半紙本。

【書誌】コピー機にてB4判に複写したものを二つ折し、山吹色紙の表紙（二五・八×一八・四cm）を付ける。表紙に「寛文七年版／曲舞小調〔抄〕を塗抹集コピー」六十三枚。

【内容】田中允旧藏「曲舞小調集」の複写。現在の所蔵先は不明。鴻山文庫（一〇一）や早稲田大学演劇博物館（譜185-186）に所蔵されている刊年不明「曲舞集上」「曲舞小調下」の、下巻と同版本。この本は表題・節付が元和卯年本、書体が光悦謡本に似る小謡集で、元和ごろに出版されたと想像される。諸本の中には石田友雪の後継らしい石田盛直の奥書きをもつ本があり、盛直が弟子などに頒布したと考えられている。本資料の原本には「此本依御懸望之進入之者也」寛文七／六月吉日／石田松玄斎／盛直「花押」という奥書きがある。「曲舞小調集」と「四季小謡抄」の二部からなる。詳細は「鴻上」参照。演劇博物館蔵本は、早稲田大学蔵資料影印叢書「能楽資料集2」に影印・解説がある。

### 11 寛永三年版乱曲摘要

【形態】透写本。包背装中本。

【書誌】木皮模様淡黄色表紙（一〇・〇×一四・一cm）。左肩目録を一丁付す。本文料紙は薄様紙。上巻墨付五十丁、下巻墨付五十七丁。田中允奥書「右ハ江島伊兵衛氏藏版本ヲ以透写丁/昭和廿年十一月五日/田中 允識」とあり。柱に「乱上(下)」と丁付を墨書き。

### 一冊

### 12 寛文八年乱曲摘要

【形態】透写本。包背装中本。

【書誌】渋刷毛目模様鳥の子色表紙（一〇・四×一四・一cm）。左肩長形題簽に「新版（角書）」乱曲摘要上(下)と墨書き。目録を一丁付す。本文料紙は薄様紙。上巻墨付五十丁、下巻墨付五十七丁。田中允奥書「右ハ江島伊兵衛氏藏版本ヲ以透写丁/昭和廿年十一月五日/田中 允識」とあり。柱に「乱上(下)」と丁付を墨書き。

### 二冊

わんばたう・近江八景・教訓・高野まき・末松山・高安・稻荷・龍・現在女郎花・わか竹・たうくわんばたう・現在鶴・歳暮・空也・ゆとう・昔千年・鼓瀧・小侍従・はし姫・土車・野干禪師・菅丞相・かるかや・ゆつりは・な須・之クセマイ・雪鬼・あこや松・正月七日・三月三日・五月五日・七月七日・九月九日・八月十五夜・美し謡・五輪くたき・さらしな物狂・松浦梅・きふね・野干・さうふう・えほし折・はるちか・鳥追・絃上。

【内容】現在、鴻山文庫に所蔵されている寛文八年安田十兵衛刊「乱曲摘要」（一〇二四）の透写本。所収曲が前本（一）と全く同一なので、その影響下に刊行されたと思われる。

### 一冊

### 13 小うたい 外

【形態】複写。板綴。

【書誌】コピー機にてA4判に複写、両面刷りしたものを板綴。左肩題簽「小うたい 外」。田中允識語「昭和六十三年二月十一日 田中允識/旧家蔵本コピー寛文四年（一六六四）頃の写本也」。

【内容】原本奥付「此本者以観世左近入道章句寫之並秘密之拍子亦附之往々板開之本假名使誤之不少今改正者也/寛文四年甲辰三月吉日」とあり、その裏には「同文がある。寛文四年の奥書きをもつ観世流小謡本。番外曲を多数收める。」

### 【曲名】

松下（金春）・松下（觀世）・東国下・西国下・たうく

下」と墨書き、同裏に「（コノ一丁ハ本文ニアラズ原本ノ表紙ナリ」と墨書き。目録一丁。本文料紙は薄様紙。墨付六十一丁。田中允奥書「右寛永三年版乱曲摘要下巻ハ江島伊兵衛氏ノ藏本ヲ以テ透写了/原本ハ茶表紙ニシテ題簽アリソレハ透写本第一丁/ニ模写セリ/コノ書ハ古今謡曲解題ニ寛永曲舞トアル書物ナリコノ書ノ上巻ハ下巻ヨリモ更ニ流布少ク謡曲解題ノ著者ノモコノ下巻ノミヲ藏シソノ題簽ヲ欠クタメコレガ完本ノノ下巻ナル事ハ氣付カザリシモノノ如シサレドコノ書ノ上巻ハ大阪ノ高安汲江氏ノ珍藏セラル、所ニシテ謡曲講座古板謡曲本十一頁ニ於テ紹介セラレタリソノ紹介ニヨレバ上巻ニハ（中略）曲名を擧げるノノ十九番ヲ収メ上下巻合セテ二十八番ヨリナル乱曲集ナリ/猶下巻ノしゆはハ禅宗大德寺派ノ世譜ヲ暗誦スルテメニ/作ラレタル使用謡ノ類ナルモソノ中ニミユル玉室宗珀ハ寛永十八年五月十四日入寂ナレバコハ宗珀在世中ニ作ニシテ先代春屋宗園ノ入寂セル慶長十六年二月九日以降ノ作ナルベシ或ハ新作早々ノしゆはヲコノ乱曲集ニ入レシモノニアラザルヤ/昭和十八年九月二十七日 田中 允識」とあり。表紙背に「寛永三年版 亂曲摘要下巻」と記す。

【内容】現在、鴻山文庫蔵の刊者不明寛永八年刊「乱曲摘要」の下巻（一〇二）の写し。田中允閲覽時には江島氏は下巻のみしか所蔵していなかつたらしいが、現在は上下巻の二組が鴻山文庫に所蔵されている。刊記をもつ小謡本としては最古の資料である。

### 一冊

### 14 観世當流 小謡 外三百番拍子位付

【形態】複写。板綴。

【書誌】コピー機にてA4判に複写、両面刷りしたものを板綴。中央題簽「観世當流 小謡 上(下)」。下巻に「外三百番拍子位付」と二行書き。目次には「観世當流童謡集」とある。奥付に「右小謡者外三百番之/曲節也並加観世當流之秘密悉令改正畢/貞享二乙巳歲二月吉辰/雑下文林 西村九郎右衛門 新板/大坂 稲本屋茂太郎」とあり。

### 三冊

【内容】番外曲から小謡を選び、各冊百曲。合計三百曲の小謡を取める。「鴻」一〇七八同種本があるが、刊行年・刊者に相違がみられる。「下巻には「観世當流童謡集下」とあり、下巻の書名が異なるので、数年にわたって順次刊行されたのかもしれない」と解説されており、内題も共通で、元禄期刊「一〇七八」の貞享二年再版と思われる。

## 15 九節舞(抄)

一冊

【形態】透写本。半紙本。

【書誌】仮綴本(二四・一×一六・六cm)。表紙に原本の題簽(角書「進藤」と書名「九節舞 下」)を墨書。本文料紙は薄様紙。墨付五丁。田中允奥書「右横山仙人氏ヲ煩ハシ同氏蔵進藤流曲舞(寫本)ヨリ珍曲ヲ抄寫ス」コノ書ニツイテハ謡曲界大正十一年八月・九月号ニ袖翁ノ紹介アリ/昭和十八年九月十一日/田中允識」。

【内容】現在の所蔵先は不明。横山仙人氏旧蔵進藤流曲舞集の透写本。原本は識語にあるように、横山氏によつて雑誌『謡曲界』や、「鴻」「鴻上」(十一)に紹介されている。これらを参照すると、原本は上巻(曲舞)二十二曲、中巻(久世舞)二十四曲、下巻(九節舞)二十四曲、合計七十曲所収。元禄二年亦生に永田由佐編・高橋清兵衛刊で出版された。本資料の三曲はいずれも下巻所収。

【曲名】鴻の八景・お文・五常。

## 16 寿永大全

一冊

【形態】複写。半紙本。

【書誌】コピー機にて、B5判用紙に両面複写。五十一枚。

【内容】刊年不明錦屋喜兵衛刊「当流小謡 寿永大全」の複写。小謡を季節ごとに分類し、一五九曲所収する。巻末の広告から判断して、原本は天保頃刊だと目される。「鴻上」一〇三参考。

19 謡物複写一括  
現所在不明の謡本・小謡本の複写を白糸で六つ分けて一括する。少なくとも三種ある。封筒には曲名と「家蔵」と朱書きされているので、田中允旧藏であつたらしい。謡本は東北・忠則・三輪・鞍馬・老松・花月。小謡集(田中允は「謡物集」と題す)は源氏供養・賀茂物狂・大原御幸・阿漕・野守のほか、不明曲が数曲ある(調査中)。筆跡を見る限り、室町後期~江戸初期に書写された可能性が高い。

一袋

20 川謡集  
【形態】複写。変形小本。

【書誌】黒色表紙(一八・五×一三・〇cm)。複写したものを袋綴。中央題簽「川謡集」。前西芳雄氏からの手紙を挿入する。奥付に「昭和十九年三月二十日印刷/昭和十九年三月二十五日発行」、編集兼発行人に「川崎重工業株式会社本社内/全川崎産業報国連盟事務局」藤井久雄」とあり。発行所は「全川崎産業報国連盟」。

## 20 川謡集

一冊

【形態】複写。変形小本。

【書誌】黒色表紙(一八・五×一三・〇cm)。複写したものを袋綴。中央題簽「川謡集」。前西芳雄氏からの手紙を挿入する。奥付に「昭和十九年三月二十日印刷/昭和十九年三月二十五日発行」、編集兼発行人に「川崎重工業株式会社本社内/全川崎産業報国連盟事務局」藤井久雄」とあり。発行所は「全川崎産業報国連盟」。

## 21 香村文庫旧藏乱曲

一冊

【形態】透写本。半紙本。

【内容】第二次大戦中に全川崎産業報国会が発行した小謡集。内容は櫻書店発行の小謡本をそのまま転載したものらしく、通行曲からなる。序文には「大東亜建設」のため、没我挺身して日々の労働に臨むと、逆にその理想から離れ易きことを反省し、「茲に鑑み、我が全川崎産業報国会は我が国古典芸道たる能楽・謡曲によつて其の背後に脈々として流れる惟神の道を実践体得し不知不識の間に日本の勤労觀を樹立剛毅

## 17 くせ舞

一冊

【形態】透写本。縦長本。

【書誌】白色表紙(二六・二×一七・五cm)打付外題「くせ舞」。

目録一丁。本文料紙は薄様紙。墨付十三丁。田中允奥書「右小西甚一氏ヨリ借覽シ之ヲ透写寫了/昭和十八年八月十二日田中允識」。直シあり。

【内容】上掛り節付小謡集の透写本。現在の所蔵先は不明。神服織機殿神社の神宮櫛宜だった御巫清白氏旧蔵本らしい。

【曲名】竜田川辺・小原木などの遠い曲を含む。

【書誌】竜田川辺・花盜人・篠村願書・小原木・砺並山・俱利伽羅。

## 18 便用謡

一冊

【形態】紙焼写真。半紙本。

【書誌】紙焼写真をB5判用紙に両面印刷し、右端を仮綴じする。五十七枚。末に「家蔵版本をコピーす/昭和六十三年三月二十日/田中允識」と記す。

【内容】享保八年三浦久之丞庚妥編・刊「便用謡」の紙焼写真。田中允旧蔵本の写真だが、原本の所在は不明。同版本が鴻山文庫(一〇一〇)、早稲田大学演劇博物館謡(27)にあり。

【曲名】磐の端・竹弄・七十二候・秋津国・王代記・九重・駅路・順礼・服忌令・源氏之題・画図・十四経・日蓮御書・一向三国伝来・選択集。

は、能楽評論家で知られる原藤香村（本名芳之助）が、大正九年ごろから能楽関係典籍を収集したもの。

**【曲名】**玉川・王代記・碁・上官太子・木曾願書・近江八景・須磨源氏・松浦物狂・鼓瀧・笏・鳴廻・惡源太・隱岐院・西国下・東国下・九景・經山寺・初瀬六代・雪鬼・刈萱・沢庵・飛鳥川・身壳・由良物狂・脈論・さき（鶯）。

## 22 吉川家旧蔵車屋譜本曲舞集

一冊

**【形態】**透写本。半紙本。

**【書誌】**包背裝布目地糸散らし白表紙（二五・〇×一八・五cm）。左肩長形水色題簽、一48の表紙料紙を用いるに「曲舞」と墨書。目録一丁あり。本文料紙は薄手の楮紙。半葉七行。田中允奥書「右ハ吉川子爵家旧蔵江島伊兵衛氏蔵ノ車屋本曲舞集ノ透寫本ナリ」江島氏著車屋本之研究ニ委シク解説アリ。昭和二十四年十一月二十八日／田中允識。

**【内容】**現在、鴻山文庫の所蔵されている文禄四年宗晰付

本「曲舞」の透写本。原本には「文禄四年素月下瀬 節付畢沙弥宗晰（花押）／主新蔵」の奥書があり、宗晰自筆本を息子・新蔵に譲ったことがわかる。表章氏「車屋譜本」新考（三三）（『能楽研究』一四号、一九八九年三月）参照。

## 23 米沢上杉家蔵乱曲集

一冊

**【形態】**紙焼写真。大本。

**【書誌】**薄茶色共表紙（三〇・一×二二・五cm）。表紙に「米

沢上杉家蔵／乱曲五十番 上下」と墨書。半葉に三枚の紙焼写真を貼る。百曲所収。

**【内容】**米沢上杉家蔵で現在米沢市立図書館に所蔵されるいする金剛流の乱曲集。金剛流の部分譜は僅少であり、貴重。概して遠い曲ばかりを集めたもの。原本は上下二冊となつてゐるが、本書では上冊・下冊を上下に並べて、一枚の写真に撮影している。

## 24 能研藏上杉本乱曲

一冊

**【形態】**紙焼写真（全三二一枚）（上）一〇六枚（中）一〇七枚（下）一〇八枚）。

**【書誌】**写真サイズ（八・二×一・一cm）

**【内容】**「上杉本乱曲」は、旧米沢藩主上杉家伝来の本で、現在は法政大学能楽研究所の所蔵である。乱曲は三冊一七四曲を收める（『上杉本乱曲集』〔能楽資料集成18〕わんや書店、解説参照）。

## 25 天明六年奥付金剛流譜物集

一冊

**【形態】**複写。仮綴中本。

**【書誌】**コピー機にて複写した仮綴本（一〇・八×一・四・九cm）。見開きに「宝曆三年／金剛流譜物集（仮題）」と記す。

目録一丁。本文三十七丁。最終丁裏に「西野春雄氏蔵 天明六年写本／コピー」と記す。

**【内容】**西野春雄氏所蔵の天明六年奥書（實際はそれより後の書写）がある金剛流譜本写本の複写。識語には金剛大夫三郎（氏福が「最親（親への敬称か）」）に伝授した本を天明六年に転写した由が書かれている。原本は後代においてさらに転写されたものらしい。「最親」がどの人物かは不明だが、どこかの国の藩士だつたらしい。「七口勢」「七蘭曲」と分類するのは金剛流の特色。江戸期の金剛流譜本・小譜本は僅少であり、当時の内容を伝えている上で貴重。七蘭曲の後に、以下の識語がある（〔 〕内は割注）。

## 26 鶴龜

一冊

**【形態】**透写本。大本。

**【書誌】**格子模様入茶色題簽（一六・七×一八・八cm）。左肩

梓入長形題簽に「鶴龜」と墨書。内題なし。目録一丁。本文料紙は薄様紙。全丁間紙あり。墨付十七丁。田中允奥書「右江島伊兵衛氏ヨリ借覽シ写シ了」（昭和十五年十一月十八日田中允識）と「右ノ小譜二十八番中二十番ハ明治三十年板

寛延二年年下旬至親（右親又改最親）御仲之間勤役ニ而供奉出府之處同年六月中以君命金／剛大夫三郎為門弟ト翌四未年（宝曆二改元）二月中以／誓詞血判ヲ得道成寺傳受ヲ大夫直／章句印判有宝曆二酉年十一月中／御留守居役ニ轉昇出府同四戌年／四月中此七口勢七蘭曲者非ス君命ニ又最親／自分之未熟ヲ存稽古ヲ遠慮斯然ニ大夫ヨリ／教学せよとて／直章句をもて得傳受ヲ但直／章句之本ハ猥にすへからずと同十二午年九月（子時最親四十）／（一歳）於江府ニ別ニ雖書写スト文字不僉議ニ謬有章句モ／粗抹たるに依天明六年十二月於小國御役屋此本書寫ス／于時最親六十五歳 如此書書記置レ候ニ付其通寫ス也

**【曲名】**七口勢（五輪研・須磨源氏・美人摘要・舞車（内題は「無車」）・兵捕・太刀掘・那須）・七蘭曲（杠・香椎・上官太子・島廻・隱岐院・東国下・西国下）・三之讀物（願書・起請文・勧進帳）・三番三。

喜多流小説集／二収メテ上梓サル委シクハ廃曲集「十一」、三五八頁ニ記載／セリ／昭和十八年十月八日　田中允追記」の二種あり。紫地角裂あり。「内百番作者附」と同帙入り。帙題簽に前書名を塗りつぶし「内百番作者附／鶴亀（小説集）」と記す。

【内容】現在、鴻山文庫蔵となっている文政八年喜多流写喜多流小説集「鶴亀」（二50）の透写本。原本は寛政十一年の喜多能奥書本を広島藩の能役者・十河七五郎が書写したもの。喜多流秘伝の小説が多く含まれているのが特色。

## 27 改正喜多流小説集（抄）

二冊

【形態】複写。小本。

【書誌】橙色表紙／上巻一八・七×一二・三四、下巻一八・七×一三・四四。打付外題「改正 喜多流小説集 上(下)抜書(抄)／明治四十二年七月版」。A5判に複写したものを袋綴じにする。表紙見返しに田中允識語「喜多実氏より借観。中に珍しきもの／左の十八曲をコツピーせり 昭和五十五年八月二十日 田中允識」とあり、その後に所取曲を挙げ、簡単な伝本情報を記す。

【内容】わんや書店から出版された「喜多流小説集」の一部をコピーマシンにて複写。明治四十三年刊本は初版本。

## 28 能楽研究所・般若窟文庫蔵曲舞複写断簡

二部

### 【形態】複写。袋入。

【書誌】コピー機にてB4判に複写し、右上をホツチキスで綴じる。緑色ペンでの書き入れあり。

【内容】能楽研究所蔵菊屋家旧藏喜多流外曲舞の一部(①)と能楽研究所般若窟文庫蔵「曲舞」板縫本の一部(②)の複写。西野春雄氏書簡入り。所收曲は以下の通り。  
 ①神代・一哥、由井ヶ浜・梅・旧友、葛葉・御調・生松。  
 ②餓鬼・閔明神。

# 研究展望（平成十六年）

今号もまた共同執筆により、平成16年に発表された能・狂言関係の単行本および、雑誌等に掲載された論文を概観する。少しづつ遅れを取り戻しているとはいって、「展望」というにはやはり遅いが、この年に発表された論文・小論、研究と関わるエッセイ等のうち主な物をとりあげ、全体を、単行本（表きよし）、資料研究・資料紹介（伊海孝充）、能楽論研究（高橋悠介）、能楽史研究（宮本圭造）作品研究（伊海孝充・山中玲子）、狂言研究（橋本朝生）、外国语による能研究（スティーヴン・ネルソン）の七つに分け、分担執筆している。演出・技法研究は数が多くなく、特に演出研究は作品研究と密接に関わるので、作品研究の中に含めている。重要な論考を見落とすなどの遺漏も少なからずあろうかと思う。「ご寛恕を乞う。

## 単行本

『能楽研究叢書 第1巻～第8巻』（羽田昶・西哲生編・解説。A5判685・627・779・341・385・751・385・539頁。1月。クレース出版。九五〇〇〇円）

明治から昭和にかけて出版された能楽関係書のうち、今日では入手困難なもの八点を選んで複製したもの。第1巻は明治36年から翌年にかけて刊行された大和田建樹著『能の業』の一の巻から三の巻、第2巻は同書の四の巻から六の巻、第3巻は大正6年刊の横井春野著『能楽全史』、第4巻は昭和6年刊の觀世流改訂譜本刊行会著『能譜語彙』、第5巻は昭和10年刊の大和田建樹著『能譜秘訣』、第6巻は昭和14年刊の三宅統一著『謡の基礎技術』と大正3年刊の五十嵐力著『謡曲文学講話』、第7巻は昭和14年刊の觀世左近著『能樂隨想』、第8巻は昭和32年刊の須田敦夫著『日本劇場史の研究』を収録している。セット販売なので高価ではあるが、これだけの書物が再び手に入るようになつたのは喜ばしい。

『国立能楽堂開場二十周年記念特別展示 德川家の能』（西野春雄・宮本圭造監修、国立能楽堂調査養成課編集。B5判56頁。1月。日本芸術文化振興会）

1月から2月にかけて国立能楽堂で行われた展示の図録。

宮本圭造「徳川家と能—将軍家・御三家・御三卿と能との関わり—」という18頁にわたる詳細な説明が役に立つ。それぞ